

# 水道事業会計

## 令和6年度 事業計画書

# 令和6年度水道事業会計予算(案)の主要事業

**新** は新規事業  
**拡** は拡充事業

〔 長期ビジョン・取組の方向性  
中期経営計画(6~9年度)・施策目標 〕

〔 主要事業 〕

〔 関連するSDGsの取組 〕

## 1 安全で良質な水



施策1 水源保全	(1) 道志水源林の保全	拡
施策2 水安全計画に基づく水質管理	(2) 水源水質の変化への対応	
	(3) 水質管理体制の維持・強化	拡
	(4) 西谷浄水場の再整備	
施策3 直結給水の促進	(5) 子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業	

## 2 災害に強い水道



施策1 水道施設の更新・耐震化	(1) 基幹施設の更新・耐震化	
	(2) 送配水管の更新・耐震化	
	(3) 給水管の更新・耐震化	
施策2 災害対応力の強化	(4) 他都市等との連携強化	
	(5) 災害時の通信体制強化	拡
施策3 災害時の迅速な応急給水・応急復旧に向けた取組	(6) 耐震給水栓の整備	
	(7) 民間企業等との連携	

## 3 環境にやさしい水道



施策1 自然流下系施設の整備	(1) 西谷浄水場の再整備	
施策2 省エネルギー化に向けた取組	(2) エネルギーの効率化を目指した施設整備	
	(3) 高効率モータ使用機器への更新による省エネルギー化	新
	(4) LED等高効率照明の導入	拡
	<コラム① 次世代自動車等の導入>	
施策3 再生可能エネルギーの活用	(5) 太陽光発電設備等の導入促進	拡
施策4 水源林保全の取組	(6) 市民ボランティアによる民有林整備の支援	

## 4 充実した情報とサービス



施策1 「伝わる」広報の展開	(1) 市民ニーズ等を踏まえた情報発信	
	(2) 給水スポット設置による水道水のPR	新
<コラム② 2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO2027)の機運醸成の取組>		
施策2 時代のニーズを捉えたサービスの推進	(3) 水道に関する手続きのオンライン化の拡充	拡
	(4) スマートメーターの導入に向けた取組	

## 5 国内外における社会貢献

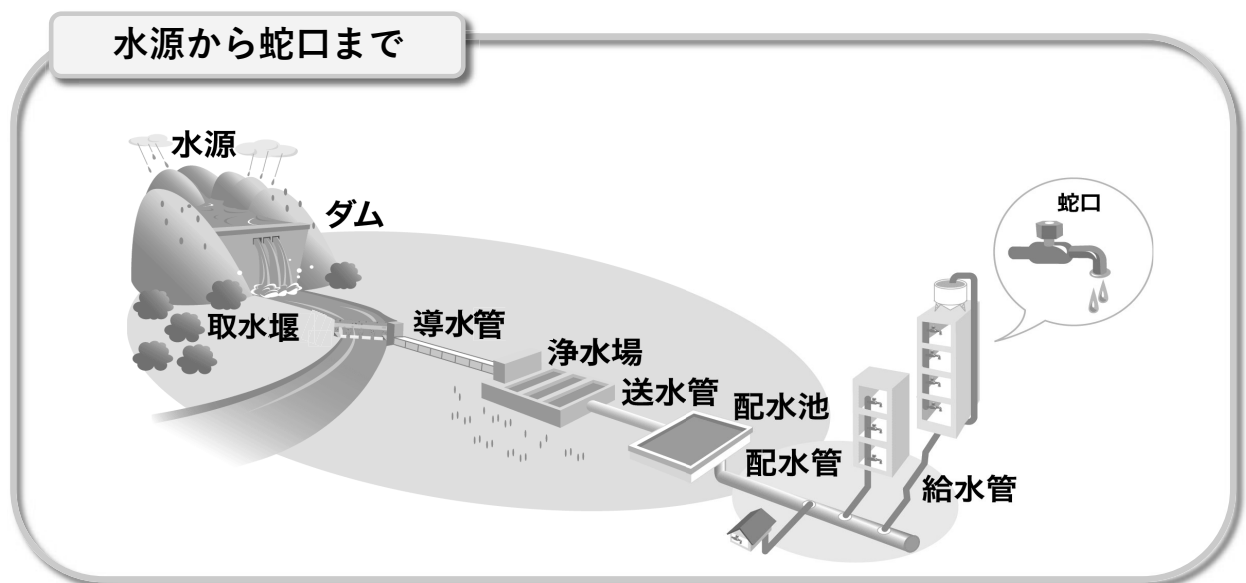


施策1 国内外水道事業への支援	(1) 国内外水道事業への貢献と市内企業の海外水ビジネス展開支援 <コラム③ 横浜ウォーター株式会社との連携> <コラム④ 第9回アフリカ開発会議(TICAD9)横浜開催に向けた機運醸成の取組>
施策2 市内経済の発展と地域課題の解決への貢献	(2) 市内中小企業者の受注機会確保 (3) 建設現場等の働き方改革と人材育成の支援 <b>拡</b> (4) 障害者就労施設等からの優先調達 <コラム⑤ 工事事故の防止>

## 6 持続可能な経営基盤



施策1 施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進	(1) 施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 <b>拡</b>
施策2 水道事業におけるICT活用・DX推進	(2) 水道事業におけるICT活用・DX推進 <b>拡</b>
	<コラム⑥ 将来の横浜の水道システム構築に向けた取組>



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局 浄水課・水源林管理所	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	----------------	--------	---	---------

事業名称	道志水源林の保全（ドローンを活用した道志水源林の整備事業）			
予算科目	水道事業会計	目 原水費・固定資産購入費	節	委託料・機械器具備品購入費など

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,360				2,360
令和5年度					0
増△減	2,360	0	0	0	2,360

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	2,360			
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**  
 道志水源林では、令和元年度からカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌を原因としたナラ枯れ被害が発生していますが、被害確認は委託で目視により行っています。被害木の調査可能期間はナラ枯れの始まる9月から10月上旬ごろと、短期間で確認する必要があります。水源林は、急勾配などところも多く、目視により山全体の様子を把握するのが困難です。そのため、ドローンを活用することで被害場所の正確な位置を特定し、ナラ枯れの効率的な調査を実施します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 ドローンを屋外で自由に操作するには、無人航空機操縦技能3日と無人航空機安全運航管理者1日のセット講習として計4日間の講習を受講する必要があります。令和6年度は、1名を受講させます。

**【 事業費の内訳 】**  
 ドローン購入費： [ ] バッテリー及び充電器を含む。）  
 基礎研修受講費： [ ]  
 アフターフォロー研修： [ ] 現地での指導2回、随時のサポートを含む。）  
 ドローン保険料（賠償責任保険、機体保険）： [ ]  
 microSDカード： 32GB 2枚、64GB1枚 [ ]  
 PC一式： [ ]  
 SIMカード（通信費 データ定額50GB）年間 [ ]

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 ドローンでのナラ枯れ確認の効果を実証することで、調査委託費用の一部を削減し、被害状況を素早く、的確に把握できるようになります。そのほか、針広混交林化を進めるにあたり、その進捗状況を容易に把握することが可能になります。また、風水害等の発生時、現場確認の際に事前にドローンを飛ばすことで、森林や道路の被害状況の概要を把握することができます。その後現地に現状復旧に入る際も、危険地域等を先に把握することにより、効率的な作業が可能になります。画像の解析には、分析用の専用ソフトが必要ですが、初年度は、無償での使用が可能のため、ソフトの有用性についても検証していきます。

**【 事業スケジュール 】**  
 ドローン講習会の受講（7月）  
 アフター研修フォロー（8月）  
 ナラ枯れ確認（9月）  
 ドローンによる効果の検証（12月）

**【 費用対効果分析 】**  
 ナラ枯れの調査は令和4年度から委託で行っておりますが、双眼鏡を使用して、目視で行う方法でした。ドローンを活用することでその期間を短縮し、委託費を縮減できます。また、被害木の正確な場所を特定することで、処理に要する時間を正確に計算でき、それによって処理に係る委託料を高い精度で見積ることが可能となります。区域調査についても、調査箇所が過去のナラ枯れ発生場所に限られていたのが、ドローンを使用することでより広範囲の調査が可能になります。

**【 事業開始年度 】**  
 令和6年度開始

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	羽布津 慎一	吉井 麗子	齋藤 円

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	水源林管理所	新規拡充事業	—	事業評価書番号	1
-----	-----	--------	--------	---	---------	---

事業名称	道志水源林の保全（間伐作業等）					
予算科目	水道事業会計	目	原水費	節	委託料等	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	61,358	9,622			51,736
令和5年度	58,492	9,622			48,870
増△減	2,866	0	0	0	2,866

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	47,300	40,170	57,462	58,492	61,358			
決算・決算見込	39,147	40,422	47,505	51,601	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**

本事業は、横浜市水道局が所有する道志水源林の水源かん養機能※1向上及び自然環境保全を目的として、森林の保護育成を行うものです。  
 「道志水源林プラン(第十一期)(平成28～令和7年度)」(以下、「道志水源林プラン」という。)に基づき、2,873haの公有林のうち約27%を占める針葉樹の人工林(約762ha)の間伐などを行い、広葉樹を増やすことで、水源かん養機能をより高めることができる針広混交林※2または広葉樹林を育成する管理を行っています。  
 なお、整備費の一部には、企業・団体と協働で水源保全に取り組む「水源エコプロジェクトW-eco・p(ウィコップ)」の寄付金を活用します。  
 ※1 森林の土壌が持つ、「水を蓄える」「水を浄化する」「洪水を緩和する」という3つの働き  
 ※2 針葉樹林の大木の間に、保水機能の高い広葉樹が混生する森林

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

- ・間伐整備面積 57ha
- ・ナラ枯れ対策 1,500本（被害木くん蒸処理作業・被害木調査作業）

道志水源林プランにおける現在の計画では、植栽後15年目から105年目まで、10年ごとに間伐を行うこととしています。本プランに基づく管理は順調であり、針広混交林化が進んでいる状況です。  
 また、近年全国各地で拡大している、ナラ類やシイ・カシ類等の広葉樹が集団枯損する害虫被害(ナラ枯れ)が、道志水源林にも見られるため、山梨県や道志村と協力しながら、対策を進めます。

**【 事業費の内訳 】**

間伐作業等  
 ナラ枯れ対策 (被害木くん蒸処理作業 ■■■■■ 被害木調査作業 ■■■■■ )  
 その他経費 ■■■■■

**【 実績の推移・今後見込み 】**

3年度実施	間伐作業	58ha	被害木くん蒸処理作業	734本
4年度実施	間伐作業	55ha	被害木くん蒸処理作業	1,601本
5年度予定	間伐作業	57ha	被害木くん蒸処理作業	1,758本
6年度予定	間伐作業	57ha	被害木くん蒸処理作業	1,500本(推定)

**【 事業スケジュール 】**

道志水源林のほぼ全域が、森林法に基づく「保安林」に指定されており、指定施業要件により、樹木の体積による間伐率(材積間伐率)が定められているため、それに則して計画的な間伐を実施します。  
 また、ナラ枯れ対策については、ナラ枯れが終息するまで、山梨県や道志村と協力しながら実施する予定です。

**【 費用対効果分析 】**

道志水源林の保全は、市民に安全で良質な水を安定してお届けするための土台となるものであり、将来にわたって横浜の水道を守っていくために必要な事業です。  
 ナラ枯れ対策については、道志水源林全域にあるナラ類が枯渴した場合、広葉樹林の育成や針広混交林化の促進に大きな影響を及ぼすとともに、枯渴した森林を元に戻すためには莫大な費用と時間を要するため、早期に被害の拡大防止に取り組むことが必要です。

**【 事業開始年度 】**

大正5年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	山口哲司		山口雄一

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局 浄水課、川井浄水場	新規拡充事業	一	事業評価書番号	2
-----	---------------	--------	---	---------	---

事業名称	水源水質の変化への対応				
予算科目	水道事業会計	目	原水費	節	委託料、薬品費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	58,718				58,718
令和5年度	36,292				36,292
増△減	22,426	0	0	0	22,426

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	37,240	133,210	761,069	36,292	58,718			
決算・決算見込	11,487	53,422	722,163	77,406	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**  
 道志川系統では、近年、水源で高濃度のかび臭物質（2-MIB）が発生しており、浄水処理において最大の懸念材料となっています。そのため、かび臭物質への対策として、平成27年度に麻溝活性炭注入設備を設置しましたが、この設備はジェオスミンと呼ばれる別のかび臭物質の除去を目的としており、ジェオスミンより除去が難しく更に高濃度で発生する2-MIBに対しては能力が不足していました。  
 そこで、青山沈でん池に活性炭注入設備を新たに設置することで、人が臭いを感じない濃度まで、かび臭物質を除去し、市民の皆さまに安全で良質な水を安定的に供給することを目的としています。  
 また、道志川への建設発生土流入など不測の事態に備え、現場パトロールに取り組んでいます。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 青山沈でん池の活性炭注入設備は、令和5年度に設置が完了し、運用を開始しています。6年度は、活性炭注入設備によるかび臭物質の除去効果を検証し、薬品コストを考慮した最適な運用方法を決定していきます。  
 また、道志川への建設発生土流入を確認するための現場パトロールを引き続き実施します。

**【 事業費の内訳 】**  
 (単位：千円)

事業内容	金額
麻溝活性炭注入設備点検委託	
薬品費（青山沈でん池、麻溝）	
合計	

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和元年度：基本設計  
 令和2年度～3年度：詳細設計  
 令和3年度～5年度：設置工事  
 令和5年度～：運用開始  
 令和6年度～：かび臭物質の除去効果の検証、薬品コストを考慮した最適な運用方法の実施

**【 事業スケジュール 】**

**【 費用対効果分析 】**  
 道志川系統におけるかび臭物質2-MIBの濃度は、平成30年度に過去最大値として54ng/Lを記録しました。今後も高い濃度で発生することが想定されるため、活性炭の注入能力は、2-MIBの想定濃度100ng/Lに対しても確実に処理ができるよう、活性炭の注入能力を15mg/Lに設定しました。これにより、取水減量を行わずに浄水処理が可能となります。  
 6年度は、活性炭注入設備によるかび臭物質の除去効果を検証し、薬品コストを考慮した最適な運用方法を決定していきます。

**【 事業開始年度 】**  
 令和元年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	浄水係
	羽布津 慎一	松田 浩明	嶽 仁志

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局 水質課・浄水課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	3
-----	-------------	--------	---	---------	---

事業名称	水質管理体制の維持・強化				
予算科目	水道事業会計	目	原水費、浄水費、配水費	節	光熱水費、通信費、委託料、手数料、材料費、薬品費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	847,501				847,501
令和5年度	778,624	0	0	0	778,624
増△減	68,877	0	0	0	68,877

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	116,116	870,641	755,273	778,624	847,501			
決算・決算見込	104,688	786,534	681,323	712,972	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**

水道局では安全で良質な水道水の供給を目的として、水安全計画に基づき水源から蛇口までの水質管理を行っています。特に浄水場を水道水の製造工場として位置づけて、製品の品質管理の国際規格であるISO 9001(\*1)の認証を取得し、これに基づいて適切な浄水処理を行っています。また、水道水が、浄水場からお客さまの蛇口に届くまでの間も品質が確保されるよう、市内43か所に設置した水道計測設備により水道水の濁度・色度・残留塩素濃度を毎日24時間連続監視しています。

水道水質については、国の定める統一的な水質基準よりも厳しい「水質管理値」を独自に設定し、これを常に達成できるよう水質管理を行っています。一方で、必要以上に水質管理レベルを厳しくしてしまうと、浄水処理コスト増加の一因となるため、安全性の確保を前提とした上でコスト面を考慮した水質管理を行い、薬品費の縮減に努めます。

水質管理の根幹である水質検査については、検査機器の計画的な更新や水道GLP(\*2)の認定を継続し、高い検査精度を維持しています。

また、近年、新たな水質リスクとして有機フッ素化合物(PFOs・PFOAなど)が取り上げられています。最新の知見や国の動向等を情報収集するとともに、近隣事業体とも連携しながら有機フッ素化合物の汚染の実態把握や測定体制の強化を行います。

これらの事業を通じて、お客さまに安全で良質な水道水を供給していきます。

(\*1) ISO 9001は、国際標準化機構 (ISO) の定める国際規格の1つであり、安定した製品・サービスの提供によるお客さまの満足度の向上を目的とした品質マネジメントシステム規格です。水道局では、取水施設から浄水場まで及び配水池を水道水の製造工場として位置づけ、平成17年6月にISO 9001の認証を取得しています。

(\*2) 水道GLP (水道水質検査優良試験所規範) は、公益社団法人日本水道協会が定めた水質検査結果の精度と信頼性の保証を確保するための認定基準です。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

令和6年度は本事業の実施によりお客さまに安全で良質な水道水を供給するとともに、外部機関によるISO 9001の認証維持審査を受審し、認証を継続します。また、有機フッ素化合物などの新たな水質リスクへの監視を強化します。

**【 事業費の内訳 】 (単位：千円)**

項目	事業費
有機フッ素化合物などの監視強化	
水道計測設備による水質監視 (浄水課)	
浄水場薬品費 (3浄水場)	
水道GLP体制の維持 (水質課)	
ISO9001の認証維持 (浄水課)	
計	

※令和3年度から浄水処理に係る薬品費を含んでいます。

**【 実績の推移・今後見込み 】**

	令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (見込)	令和6年度 (予定)
水質管理値達成率	99.5% ※	99.5% ※	100.0%	100%	100%
ISO9001	認証維持審査	認証維持審査	更新審査	認証維持審査	認証維持審査
水道GLP	—	更新審査	—	認定維持審査	—
有機フッ素化合物の合計測定回数	6回	12回	12回	12回	32回
有機フッ素化合物の測定可能項目数	2項目	2項目	3項目	3項目	15項目

※横浜市独自の水質管理値を超過していた日数が2日間ありました。

**【 事業スケジュール 】**

通年 : 水質管理値100%達成のための水質管理の実施。有機フッ素化合物などの新たな水質リスクへの監視強化、水道計測設備の維持管理、ISO9001の認証維持、水道GLPの認定維持

**【 費用対効果分析 】**

有機フッ素化合物などの新たな水質リスクへの監視を強化するとともに、コスト面も考慮した水質管理が行い、安全な水の供給と費用の縮減の両立を図ります。

**【 事業開始年度 】** 平成17年度

**【 根拠法令・データ等 】** 水道法、水質試験年報、ISO9001及び水道GLPの外部審査結果

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	水質管理係
	片岡 雅樹	井上 智	高柳 亜由美

【様式6】

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	再整備推進課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	5
-----	-----	--------	--------	---	---------	---

事業名称	西谷浄水場の再整備（西谷浄水場再整備事業）					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節	工事請負費	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	9,685,704	3,006,543	143,000		6,536,161
令和5年度	4,072,229	1,152,747	39,795		2,879,687
増△減	5,613,475	1,853,796	103,205	0	3,656,474

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	98,948	700,120	1,557,343	4,072,229	9,685,704	11,484,286	11,000,071	13,496,214
決算・決算見込	132,754	497,698	1,557,343	2,430,154	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**  
 横浜市水道局では、浄水処理の効率化及びエネルギー有効活用の観点から、「1水源1浄水場」「自然流下系の優先」を基本方針として浄水場の再整備に取り組んでいます。  
 西谷浄水場の再整備では、①耐震性が不足しているろ過池と排水池の整備、②水源の水質状況にも対応できる粒状活性炭処理の導入、③相模湖系の水利権水量の全量処理を可能とするための処理能力の増強を主な事業内容とし、浄水処理施設と排水処理施設を再整備します。  
 また、これに合わせて、導水能力の増強と耐震化を図るため、相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）について新たなルートに導水管を整備します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 浄水処理施設については、引き続き工事（沈でん池改良、新設ろ過池築造に伴う西谷幹線切回しや1号配水池撤去）を進めていきます。  
 排水処理施設については、引き続き工事（排水池築造、排泥池及び濃縮槽補修、管路更新、脱水機棟の建設）を進めていきます。  
 また、コンストラクションマネジメントを活用し、浄水処理施設、排水処理施設及び導水管の整備に関する工程管理、要求水準や技術提案の履行確認、事業費及び品質の管理を適切に行ってまいります。  
 その他、関連工事（2号配水池流入管）の設計業務に着手してまいります。

**【 事業費の内訳 】**

	5年度	6年度
西谷浄水場再整備事業（浄水処理施設）に係る整備工事		
西谷浄水場再整備事業（排水処理施設）に係る整備工事		
西谷浄水場再整備等に伴うコンストラクションマネジメント業務委託		
西谷浄水場の再整備に関わる委託業務等		
事務費		
合計	4,072,229	9,685,704

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和3年度 契約締結（6月） 西谷浄水場再整備事業（排水処理施設）に係る整備工事  
 契約締結（8月） 西谷浄水場再整備等に伴うコンストラクションマネジメント業務委託  
 令和4年度 契約締結（4月） 西谷浄水場再整備事業（浄水処理施設）に係る整備工事

**【 事業スケジュール 】**  
 浄水処理施設 設計・施工期間 令和4年度～令和14年度（約11年間）完了見込み  
 排水処理施設 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み  
 CM業務委託 委託期間 令和3年度～令和8年度（約6年間）完了見込み  
 <参考>  
 相模湖系導水路 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み

**【 費用対効果分析 】**  
 （安全で良質な水）処理能力の増強に伴う安定給水の確保  
 （災害に強い水道）導水施設、浄水場の更新・耐震化に伴う災害に強い水道施設の構築（耐震化率の向上）  
 （環境に優しい水道）自然流下系給水エリアの拡大に伴うエネルギー消費の抑制

**【 事業開始年度 】**  
 平成28年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	敦賀 仁	酒井 宏朗	磯部 太志



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	再整備推進課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	4
-----	-----	--------	--------	---	---------	---

事業名称	西谷浄水場の再整備（相模湖系導水路改良事業）					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節	工事請負費	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,619,801				2,619,801
令和5年度	1,835,287				1,835,287
増△減	784,514	0	0	0	784,514

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	526,655	3,941,999	1,835,287	2,619,801	14,009,211	6,095,952	2,554,599
決算・決算見込	0	601,106	3,941,999	1,835,379	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**  
 横浜市水道局では、浄水処理の効率化及びエネルギー有効活用の観点から、「1水源1浄水場」「自然流下系の優先」を基本方針として浄水場の再整備に取り組んでいます。  
 西谷浄水場の再整備では、処理能力や耐震性が不足していることから、浄水処理施設と排水処理施設を再整備します。  
 相模湖系導水路は水源である相模湖から西谷浄水場に原水を送るための管路で、このうち川井接合井から西谷浄水場の区間は、導水能力（約3km）や耐震性（約7km）が不足しています。そのため、川井接合井から西谷浄水場までの新たなルートに、シールド工事で導水管を整備します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 発進・到達立坑の築造及びシールド工など、引き続き工事を進めていきます。  
 また、相模湖系導水路改良事業に関わる川井浄水場活性炭注入設備及び麻溝次亜塩素注入設備の設置に伴う設計業務等も行います。

**【 事業費の内訳 】**

	5年度	6年度
相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）改良事業に係る導水施設整備工事		
相模湖系導水路改良事業に関わる委託業務等		
事務費		
合計	1,835,287	2,619,801

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和3年度 契約締結（4月） 相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）改良事業に係る導水施設整備工事

**【 事業スケジュール 】**  
 相模湖系導水路 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み  
 <参考>  
 浄水処理施設 設計・施工期間 令和4年度～令和14年度（約11年間）完了見込み  
 排水処理施設 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み  
 CM業務委託 委託期間 令和3年度～令和8年度（約6年間）完了見込み

**【 費用対効果分析 】**  
 （安全で良質な水）処理能力の増強に伴う安定給水の確保  
 （災害に強い水道）導水施設、浄水場の更新・耐震化に伴う災害に強い水道施設の構築（耐震化率の向上）  
 （環境に優しい水道）自然流下系給水エリアの拡大に伴うエネルギー消費の抑制

**【 事業開始年度 】**  
 平成29年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	敦賀 仁	酒井 宏朗	磯部 太志

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	6
-----	-----	-------	--------	---	---------	---

事業名称	子どもたちが水道水を飲む文化を育む事業				
予算科目	水道事業会計	目	給水費	節	助成金

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	28,000	0	0	0	28,000
令和5年度	68,000	0	0	0	68,000
増△減	△ 40,000	0	0	0	△ 40,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	68,000	68,000	68,000	68,000	28,000	28,000	28,000	28,000
決算・決算見込	68,000	48,000	24,000	68,000	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
 この事業は、市内の小中学校等の屋内水飲み場を直結給水化することで、横浜市の未来を担う子どもたちに蛇口から水道水を飲む文化を育てていただくことを目的として平成17年度から実施しており、教育委員会事務局が行う学校の改修工事のうち、直結給水化に係る工事費の一部を水道局が助成しているものです。

【 令和6年度実施内容の概要 】  
 教育委員会事務局が行う学校の改修工事のうち、直結給水化に係る工事費の一部を水道局が助成する予定です。なお、令和6年度以降については、教育委員会事務局の改修工事費が大幅に増加していることから、当面の間、改修を行う学校数が最大で年間7校となるため、最大7校（1校当たり4,000千円）を助成対象とすることを教育委員会事務局と調整しております。

【 事業費の内訳 】  
 ・直結給水化に係る工事費の一部（1校あたり最大400万円）を水道局が助成

	5年度(予定)	6年度(予定)	7年度(予定)	8年度(予定)	9年度(予定)
助成額(千円)	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
助成学校数	17	7	7	7	7
事業費(千円)	68,000	28,000	28,000	28,000	28,000

【 実績の推移・今後見込み 】  
 ・実績の推移

	元年度	2年度	3年度	4年度
助成学校数	15	17	12	6

・今後の見込み  
 上記表（事業費の内訳）参照。

【 事業スケジュール 】  
 ・5月直結化実施校決定  
 ・6月～11月工事に関する事前打ち合わせ及び技術的情報の提供  
 ・7月～1月工事着手（予定）  
 ・9月～2月工事完了（予定）

【 費用対効果分析 】  
 受水槽から供給している水道水は、外気により温まった水が蛇口から給水されることから、子どもたちが水道水をおいしくないと感じていましたが、直結給水とすることで子どもたちに冷たく良質な水を供給し、水道水への信頼を高め、蛇口から直接水道水を飲む文化を育てています。  
 また、施工した小中学校の中から、各年度2～4校の学校を選定しアンケート調査を行っており、令和元年度までに57校、26,755人の児童にアンケート調査を行っていますが、約80%以上の児童から「夏休み前よりおいしくなったと思う」との回答をいただいております。なお、令和2年度以降につきましては、教育委員会と協議した結果、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、アンケート調査を中止しています。

【 事業開始年度 】  
 ・平成17年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	八木 賢二	関口 慧樹

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	計画課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	7
-----	-----	-----	--------	---	---------	---

事業名称	基幹施設の更新・耐震化					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節		

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金等
令和6年度	6,673,268		734,119	6,000	478,476	5,454,673
令和5年度	3,970,099		44,726	2,625	607,387	3,315,361
増△減	2,703,169	0	689,393	3,375	△128,911	2,139,312

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	4,225,447	3,298,579	3,866,649	3,970,099	6,673,268	4,290,000	4,167,000	2,602,000
決算・決算見込	3,937,419	3,707,145	2,385,424	—	—	—	—	—

【事業の目的・必要性】

浄水場や配水池など基幹施設の多くは、高度経済成長期に建設され老朽化が進んでいるため、アセットマネジメントの考え方に基づき事業の平準化を図りながら更新・耐震化を進めます。  
 浄水場や電機・計装設備など、古くなった水道施設を新しい施設に更新します。また、耐震性が不足している土木構造物などの耐震化を進めます。

【令和6年度実施内容の概要】

(令和6年度の主な委託・工事)

- ・ 相模ずい道・横浜ずい道ほか1か所耐震診断調査業務委託
- ・ 引地川水路橋耐震補強工事
- ・ (仮称)高塚から上飯田線ループ管口径500mm新設工事
- ・ 小雀浄水場受電所電力設備改良工事

【事業費の内訳】

(単位：千円)

区分	R5年度予算	R6年度予算	増△減
電機・計装設備等の更新	3,867,520	6,309,644	2,442,124
土木構造物等の耐震化	102,579	363,624	261,045
計	3,970,099	6,673,268	2,703,169

【実績の推移・今後見込み】

整備指標	整備水準			実施内容
	R5年度見込	R6年度予定	R7年度予定	
	51%	51%	51%	
浄水施設の耐震化率	川井 100% 西谷 0% 小雀 63%	川井 100% 西谷 0% 小雀 63%	川井 100% 西谷 0% 小雀 63%	・ 西谷浄水場再整備の実施 ・ 小雀浄水場の廃止に向けた検討
配水池等の耐震化率	96%	96%	96%	・ 小雀1号配水池の必要性を検討 ・ R7年度から峰配水池の設計業務着手

【事業スケジュール】

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相模ずい道・横浜ずい道ほか1か所耐震診断調査業務委託</li> <li>・ 引地川水路橋耐震補強工事</li> <li>・ (仮称)高塚から上飯田線ループ管口径500mm新設工事</li> <li>・ 小雀浄水場受電所電力設備改良工事</li> </ul> | 施工期間：令和5年度から令和6年度<br>施工期間：令和6年度から令和9年度<br>施工期間：令和5年度から令和7年度<br>施工期間：令和4年度から令和7年度 |
|---|--|

【費用対効果分析】

基幹施設は、浄水場や配水池など、安定給水において影響度が大きい施設になります。耐震性が不足している施設や、耐用年数を迎えた施設などについて、更新や改良工事を行うことにより、大規模な被害・損害の発生を防ぎます。

【事業開始年度】

—

【根拠法令・データ等】

- ・ 「水道施設の技術的基準を定める省令」(厚生労働省,平成12年度施行,令和元年直近改正)
- ・ 「水道施設耐震工法指針・解説」(社団法人日本水道協会,令和4年度)

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	施設計画 係
	古川 明彦	山田 一人	大淵 空

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局 配水課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	8
-----	---------	--------	---	---------	---

事業名称	送配水管の更新・耐震化				
予算科目	水道事業会計	目	配水管整備事業費・市内配水費	節	工事請負費・修繕費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	34,240,000		1,450,000	983,582	31,806,418
令和5年度	31,696,000		2,094,000	925,770	28,676,230
増△減	2,544,000	0	△644,000	57,812	3,130,188

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	25,173,000	30,940,000	30,785,000	31,696,000	34,240,000	34,503,001	33,817,337	34,969,170
決算・決算見込	24,927,395	30,012,907	30,219,419	32,361,062	—	—	—	—

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【事業の目的・必要性】**  
 市内には送配水管が約9,300km埋設されており、管路の布設年度や埋設状況、漏水履歴などを総合的に勘案し、優先順位を付けて年間100km程度を目標に更新を進めています。更新する際には、大規模地震等の災害時においても市民給水が確保されるように、耐震管で更新を行っています。また、水需要に見合った施設規模となるようにダウンサイジングに取り組み、コスト削減を図っています。  
 令和6年度から始まる中期経営計画では、「①铸铁管(CIP)の更新・耐震化」「②送配水本管の更新・耐震化」「③重要拠点施設につながる管路の耐震化」の3つについて重点的に取組みます。  
<①铸铁管(CIP)の更新・耐震化>  
 铸铁管(CIP)は、衝撃がかかること他の管より割れやすく漏水リスクが高いことから、昭和44年から更新を進めており、令和5年度末時点で100km程度残っています。これらの管路の多くは交通量の多い幹線道路や線路の下など、更新にあたり関係者との事前調整や工事に時間を要する箇所に埋設されていますが、早期完了を目指し計画的に更新します。  
<②送配水本管の更新・耐震化>  
 送配水本管(主に口径400mm以上の管路)は、災害時に被害があった場合に大きな影響を及ぼす可能性があるため、優先的に更新・耐震化し、令和41年度末までに耐震管率100%を目指します。  
<③重要拠点施設につながる管路の耐震化>  
 災害時に重要な役割を担う地域防災拠点や病院などの施設(重要拠点施設)につながる管路等を優先的に更新・耐震化します。

**【事業費の内訳】**  
 老朽管更新・管網整備による配水管の耐震化

対策名	撤去延長(m)	事業費(千円)	事業費内訳(千円)	
老朽管更新	97,210	33,400,673	4条	28,993,000
管網整備	1,098	839,327	3条	5,247,000
合計	98,308	34,240,000	合計	34,240,000

**【実績の推移・今後見込み】**

	令和2～5年度末 (見込み)	令和6～9年度末 (計画)
铸铁管(CIP)の更新・耐震化	72km	40km程度※1
送配水本管(主に口径400mm以上)の更新・耐震化	10km	20km程度※1
重要拠点施設につながる管路の耐震化実施数	40施設	40施設
送配水管の耐震管率(全口径)	33%	37%※2

※1 一部、令和10年度以降に継続する工事を含む  
 ※2 更新延長は100km/年程度

**【事業スケジュール】**  
 令和6～9年度の中長期経営計画期間中も継続して実施

**【事業開始年度】**  
 昭和44年度 老朽管更新事業  
 平成18年度 災害医療拠点病院等への管路の耐震化事業(平成24年度完了)  
 平成25年度 重要拠点施設につながる管路の耐震化事業

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	配水係
	足利 洋明	栗原 和昌	秀坂 直幸

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	9
-----	-----	-------	--------	---	---------	---

事業名称	給水管の更新・耐震化（老朽給水管改良促進事業）					
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	修繕費・材料費・路面復旧費	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	200,000				200,000
令和5年度	200,000				200,000
増△減	0	0	0	0	0

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000
決算・決算見込	199,674	205,608	234,722	200,000	—	—	—	—

【事業の目的・必要性】  
 給水管の更新・耐震化は、配水管の更新・耐震化に伴う給水管の取付替工事、建物の建替え等によるもののほか、本事業により進めています。この事業は、老朽化している給水管（給水装置）を対象として、所有者からの申請に基づき耐震性に優れた給水管に改良するものです。老朽化している給水装置は、漏水の主な原因となっており、災害時に給水管が損傷すると、これを修理したのちでないと水道管（配水管）に通水することができず、水道施設の復旧の遅れが生じるため早期の改良が必要です。しかし、給水装置の改良費用は、原則、所有者の負担であるため、改良が進まないという課題があることから、本事業の導入により配水管の分岐から水道メーターまでの給水管の早期改良を目指します。

【令和6年度実施内容の概要】  
 この事業では、年間約1,000箇所の老朽給水管を改良することを目標としていますが、令和2年度より施工範囲を水道メーターまで広げたことや指定材料をステンレス製の給水管としたこと、近年の工事価格の高騰により予算内で1,000箇所の改良工事が行えないため、改良工事を次年度に持ち越す状況となり、所有者が自己負担で改良工事をする事例があります。このことから、改良工事に助成金を付与する制度を構築するなどの検討を行い、水道局による改良工事の施工から、助成制度へ移行することを検討します。また、直結給水を促進するため、受水槽式給水から直結給水への切替工事を行う際の本制度の適用についても併せて検討します。

【事業費の内訳】  
 年間事業費：500件×400,000円=200,000,000円  
 老朽化した給水装置の改良にかかる費用の内訳は、修繕費104,000千円・材料費62,000千円・路面復旧費34,000千円として、1件当たり400,000円を標準工事費用として試算しています。

【実績の推移・今後見込み】

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	合計
計画	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	10,000
実績	1,040	1,003	1,002	974	926	810	975	699	732	—	8,161

【事業スケジュール】

年度	6年度		7年度		8年度	
	件数	事業費	件数	事業費	件数	事業費
合計	500	200,000	500	200,000	500	200,000

【費用対効果分析】  
 老朽化した給水管を改良することにより、漏水の未然防止及び災害対応力の強化が図れます。

【事業開始年度】  
 平成26年度

【根拠法令・データ等】  
 横浜市水道条例（費用負担の原則）  
 第13条 給水装置工事に要する費用は、給水装置工事申込者の負担とする。ただし、管理者が特に必要があると認めたものについては、市においてその費用を負担することができる。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	八木 賢二	木村 紀之

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	設備課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	災害時の通信体制強化				
予算科目	水道事業会計	目	浄水費、諸設備改良費	節	委託料、工事請負費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	219,600	0	0	0	219,600
令和5年度	635	0	0	0	635
増△減	218,965	0	0	0	218,965

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	0	0	635	219,600	165,000	0	0
決算・決算見込	0	0	0	4,467	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

水道局は、災害時通信体制における各庁舎間の速やかな情報伝達を目的として、7.5GHz帯および5.0GHz帯の無線通信網を、各浄水場、本庁、西谷分庁舎、西谷第2分庁舎、菊名ウォータープラザ、中村ウォータープラザ間で構築しています。これらの既設通信網に各水道事務所、給水工事受付センター、工業用水課および神奈川県内広域水道企業団本庁舎を加え、通信網の更なる体制強化を図ります。また、菊名ウォータープラザにおいては、市庁舎の移転に伴い港北区役所の中継点が不要と判明したため、中継点を廃止します。

【 令和6年度実施内容の概要 】

- 令和6年度においては、下記の工事、委託を実施します。
- (1) 洋光台水道事務所、三ツ境水道事務所、給水工事受付センター、工業用水課および神奈川県内広域水道企業団における、通信網への追加に向けたアンテナ設備等の設置
  - (2) 港北区役所の中継点の撤去、菊名ウォータープラザの改良
  - (3) 青葉水道事務所、鶴見水道事務所、戸塚水道事務所の電波伝搬調査

【 令和6年度事業費の内訳 】

単位(千円)

区分	6年度予算
5.0GHz帯通信設備導入工事および中継点の廃止	
電波伝搬調査	

【 実績の推移・今後見込み 】

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業内容			

なお、神奈川県内広域水道企業団については、三ツ境水道事務所－西谷浄水場間の接続に伴う中継局として、伝搬調査およびアンテナ及び簡易な通信設備の設置を行います。

また、令和7年度に施工を予定している青葉水道事務所、鶴見水道事務所、戸塚水道事務所については、立地条件などから直接の接続が困難なため、中継点を経由することとし、令和6年度に通信ルートの検討及び伝搬調査を行います。

【 事業スケジュール 】

- 令和5年度：電波伝搬調査の実施（4区間）、電波伝搬調査の実施（2区間）  
 令和6年度：アンテナ設備等設置工事（6区間）、港北区役所の中継点の廃止、  
 電波伝搬調査の実施（6区間）  
 令和7年度：アンテナ設備等設置工事（6区間）

【 事業開始年度 】

令和5年度

【 根拠法令・データ等 】

—

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	設備監理係
	小野 好信	渡辺 浩平	井上 友輔

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	10
-----	-----	-------	--------	---	---------	----

事業名称	耐震給水栓の整備					
予算科目	水道事業会計	目	給水費	節	助成金・備消耗品費	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	5,120				5,120
令和5年度	3,600				3,600
増△減	1,520	0	0	0	1,520

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	3,600	3,600	3,600	3,600	5,120	4,096	9,216	9,216
決算・決算見込	3,600	3,600	3,600	3,600	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**  
 この事業は、地域防災拠点のうち、災害用地下水タンク、緊急給水栓及び学校受水槽を活用した応急給水施設が、いずれもが整備されていない拠点を対象に、耐震給水栓を整備するものです。  
 災害用地下水給水タンクや緊急給水栓は、使用に関する知識や準備が必要ですが、耐震給水栓については、特別な操作が必要がなく、発災初期から地域の皆さまの共助により応急給水が可能であるため、発災時の職員派遣が不要です。  
 令和7年度以降は、応急給水施設が未整備の地域防災拠点に加えて、応急給水施設が学校受水槽のみで受水槽が小さく直結給水化が完了した拠点に整備を進めます。また、更新や維持管理に多額の費用を要する災害用地下水タンクが設置されている拠点への併設を進めます。  
 平成28年～平成29年度 2校(実験的に水道局で設置)  
 平成30年～令和5年度 46校(総務局、教育委員会、水道局の共管事業として設置)  
 令和6年～令和9年度 27校(総務局、教育委員会、水道局の共管事業として設置予定)

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 応急給水施設が整備されていない拠点(5か所)に耐震給水栓を整備します。

**【 事業費の内訳 】**  
 耐震給水栓の設置工事は水道局が施工します。耐震給水栓本体に係る費用の総務局分は、年度末に繰入金収入されますが、水道局負担分は水道事務所の修繕費から助成金へ振り替えます。また、耐震給水栓の設置に伴い耐震給水栓用のバルブ開閉器を各拠点に配備します。

<p>令和6年度事業費</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業費</th> <th style="text-align: right;">単位(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水飲み場設置費用 (1か所あたり)</td> <td style="text-align: right;">2,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>か所</td> <td style="text-align: right;">5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">10,000</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業費		単位(千円)	水飲み場設置費用 (1か所あたり)	2,000		か所	5		合計	10,000		<p>バルブ開閉器</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業費</th> <th style="text-align: right;">単位(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>バルブ開閉器購入費用 (1か所あたり)</td> <td style="text-align: right;">24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>か所</td> <td style="text-align: right;">5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">120</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	事業費		単位(千円)	バルブ開閉器購入費用 (1か所あたり)	24		か所	5		合計	120	
事業費		単位(千円)																							
水飲み場設置費用 (1か所あたり)	2,000																								
か所	5																								
合計	10,000																								
事業費		単位(千円)																							
バルブ開閉器購入費用 (1か所あたり)	24																								
か所	5																								
合計	120																								

**【 実績の推移・今後見込み 】**

事業位置づけ	実験的设置		事業化					今後の見込み				
年度	28	29	30	令和元	2	3	4	5	6	7	8	9
施工か所	1	1	5	5	9	9	9	9	5	4	9	9

**【 事業スケジュール 】**  
 平成28～令和5年度末：累計48箇所(予定)  
 令和6年度：5箇所/年(予定)  
 令和7年度：4箇所/年(予定)  
 令和8、9年度：9箇所/年(予定)

**【 費用対効果分析 】**  
 耐震給水栓を整備することにより、発災初期から飲料水を確保することができます。

**【 事業開始年度 】**  
 平成28～29年度(実験的设置)  
 平成30年度事業開始

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	渡邊 昂

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	13
-----	-----	-------	--------	---	---------	----

事業名称	民間企業等との連携（応急給水施設及び応急給水装置等の保守点検委託）					
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	委託料	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	55,151				55,151
令和5年度	51,070				51,070
増△減	4,081	0	0	0	4,081

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	41,000	44,638	48,417	51,070	55,151	55,151	55,151	55,151
決算・決算見込	42,972	45,948	46,959	50,627	—	—	—	—

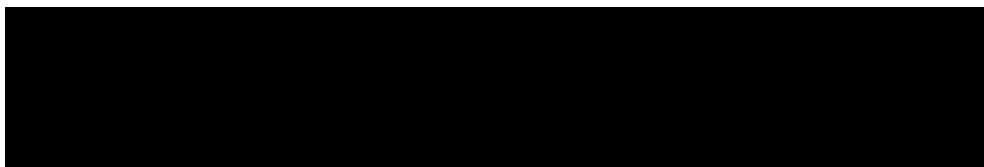
【 事業の目的・必要性 】

平成29年1月に締結した「災害時応急措置の協力に関する協定」の実効性を高め、災害時に迅速かつ確実に応急給水を行うため、災害用地下給水タンクなどの応急給水施設および応急給水装置の保守点検業務を横浜市管工事協同組合へ委託します。この業務により、常に応急給水施設の設置箇所や応急給水装置の保管場所を把握することができ、発災時の応急給水を迅速に行うことが可能となります。  
この業務を継続することで横浜市管工事協同組合との連携を強化し、更なる災害対応力の強化を図ります。

【 令和6年度実施内容の概要 】

市内全ての応急給水施設および応急給水装置の保守点検を実施します。

【 事業費の内訳 】



【 実績の推移・今後見込み 】

（単位：か所）

施設名	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
災害用地下給水タンク	134	134	134	134	134	134
緊急給水栓	358	358	358	358	358	358
災害拠点病院等	60	59	60	60	60	60
計	552	551	552	552	552	552

※ 平成30年度より、市内全ての応急給水施設等に拡充しました。  
 ※ 災害拠点病院等については、年度ごとに件数が変わる場合があります。  
 ※ 点検か所数の大きな変動はありませんが、年々労務単価の増額が見込まれます。

【 事業スケジュール 】

今後も、毎年度継続していく予定です。

【 費用対効果分析 】

災害発生時の迅速な応急給水が可能となり、市民の皆さまの飲料水確保がより確実なものとなります。

【 事業開始年度 】

平成29年度

【 根拠法令・データ等 】

—

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	武田 仁志



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	浄水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	民間企業等との連帯（災害時燃料確保策）				
予算科目	水道事業会計	目	浄水費	節	負担金

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	5,756				5,756
令和5年度	5,756				5,756
増△減	0	0	0	0	0

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	5,703	5,756	5,756	5,756	5,756	5,756	5,756	5,756
決算・決算見込	5,702	5,756	5,756	5,756	-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**

水道局として、災害により停電した場合でも給水を継続するため、浄水場及び寒川ポンプ場を稼働させることが最優先であると考えています。  
 横浜市業務継続計画において、災害により停電した場合、電気が復旧するまでの想定期間は3日間とされているため、浄水場及び寒川取水事務所を3日間（72時間）稼働させるために必要な非常用自家発電設備の燃料油を確保することが重要です。  
 そこで、平成30年度から、市内の民間事業者と「燃料油備蓄協定」を締結し、災害により停電した場合に不足すると想定される燃料油を常に備蓄してもらい、停電発生時には、優先かつ迅速的に運搬・給油を受けることができる体制を確保しています。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

- ・軽油 [ ] リットル、灯油 [ ] リットルの備蓄及び年2回の災害時想定給油訓練の実施
- ・指定供給場所：[軽油]西谷浄水場  
 [灯油]川井浄水場（セラロック）、小雀浄水場、寒川取水事務所  
 工業用水課\*、市内一円ポンプ場\*（※事業者と協議のうえで運搬・給油が可能）
- ・備蓄量の月次報告、四半期毎の現地確認

**【 事業費の内訳 】**

事業費 5,756千円  
 (内訳) 軽油 [ ] × 備蓄保管料月額 [ ] = [ ]  
 灯油 [ ] × 備蓄保管料月額 [ ] = [ ]  
 月額 [ ] 円 × 12か月 × 1.1 (消費税) = [ ]

**【 実績の推移・今後見込み 】**

- 平成30年3月28日 協定締結
- 平成30年4月1日 事業開始
- 令和元年度以降 燃料油備蓄協定を継続
- 平成31年3月27日 協定を一部変更（備蓄量等について）
- 令和4年10月31日 協定を一部変更（対象施設等について）

**【 事業スケジュール 】**

- 令和5年12月 次年度の事業について調整、検討
- 令和6年3月 協定の有効期限についてさらに1年間延長
- 令和6年4月 協定書に基づき事業の継続開始

**【 費用対効果分析 】**

災害による停電発生時に不足すると想定される非常用自家発電設備の燃料を、民間事業者が有するタンクで常に備蓄し、実際に停電が発生した際には、優先かつ迅速的に運搬・給油を受けることができる体制を確保できます。  
 また、当局と燃料相互応援の覚書を締結している名古屋市上下水道局及び新潟市水道局から、燃料油の応援要請があった場合においても、当該事業者に対して燃料油供給要請ができるという利点もあります。

**【 事業開始年度 】**

平成30年度

**【 根拠法令・データ等 】**

- ・横浜市業務継続計画（BCP）【地震編】
- ・災害時に備えた燃料油の備蓄及び供給に関する協定（平成30年3月28日締結）
- ・災害時に備えた燃料油の備蓄及び供給に関する協定の一部を変更する協定書（平成31年3月27日締結）
- ・災害時に備えた燃料油の備蓄及び供給に関する協定の一部を変更する協定書（令和4年10月31日締結）

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	羽布津 慎一	吉井 麗子	篠原 捷太

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	再整備推進課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	16
-----	-----	--------	--------	---	---------	----

事業名称	自然流下系浄水場の優先的整備（西谷浄水場再整備事業）					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節	工事請負費	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	9,685,704	3,006,543	143,000		6,536,161
令和5年度	4,072,229	1,152,747	39,795		2,879,687
増△減	5,613,475	1,853,796	103,205	0	3,656,474

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	98,948	700,120	1,557,343	4,072,229	9,685,704	11,484,286	11,000,071	13,496,214
決算・決算見込	132,754	497,698	1,557,343	2,430,154	—	—	—	—

**【事業の目的・必要性】**

横浜市水道局では、浄水処理の効率化及びエネルギー有効活用の観点から、「1水源1浄水場」「自然流下系の優先」を基本方針として浄水場の再整備に取り組んでいます。

西谷浄水場の再整備では、①耐震性が不足しているろ過池と排水池の整備、②水源の水質状況にも対応できる粒状活性炭処理の導入、③相模湖系の水利権水量の全量処理を可能とするための処理能力の増強を主な事業内容とし、浄水処理施設と排水処理施設を再整備します。

また、これに合わせて、導水能力の増強と耐震化を図るため、相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）について新たなルートに導水管を整備します。

**【令和6年度実施内容の概要】**

浄水処理施設については、引き続き工事（沈でん池改良、新設ろ過池築造に伴う西谷幹線切回しや1号配水池撤去）を進めていきます。

排水処理施設については、引き続き工事（排水池築造、排泥池及び濃縮槽補修、管路更新、脱水機棟の建設）を進めていきます。

また、コンストラクションマネジメントを活用し、浄水処理施設、排水処理施設及び導水管の整備に関する工程管理、要求水準や技術提案の履行確認、事業費及び品質の管理を適切に行っていきます。

その他、関連工事（2号配水池流入管）の設計業務に着手していきます。

**【事業費の内訳】**

	5年度	6年度
西谷浄水場再整備事業（浄水処理施設）に係る整備工事		
西谷浄水場再整備事業（排水処理施設）に係る整備工事		
西谷浄水場再整備等に伴うコンストラクションマネジメント業務委託		
西谷浄水場の再整備に関わる委託業務等		
事務費		
合計	4,072,229	9,685,704

**【実績の推移・今後見込み】**

令和3年度	契約締結（6月）	西谷浄水場再整備事業（排水処理施設）に係る整備工事
	契約締結（8月）	西谷浄水場再整備等に伴うコンストラクションマネジメント業務委託
令和4年度	契約締結（4月）	西谷浄水場再整備事業（浄水処理施設）に係る整備工事

**【事業スケジュール】**

浄水処理施設	設計・施工期間	令和4年度～令和14年度（約11年間）	完了見込み
排水処理施設	設計・施工期間	令和3年度～令和9年度（約7年間）	完了見込み
CM業務委託	委託期間	令和3年度～令和8年度（約6年間）	完了見込み
<参考>			
相模湖系導水路	設計・施工期間	令和3年度～令和9年度（約7年間）	完了見込み

**【費用対効果分析】**

（安全で良質な水）処理能力の増強に伴う安定給水の確保  
 （災害に強い水道）導水施設、浄水場の更新・耐震化に伴う災害に強い水道施設の構築（耐震化率の向上）  
 （環境に優しい水道）自然流下系給水エリアの拡大に伴うエネルギー消費の抑制

**【事業開始年度】**

平成28年度

**【根拠法令・データ等】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	敦賀 仁	酒井 宏朗	磯部 太志

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	再整備推進課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	15
-----	-----	--------	--------	---	---------	----

事業名称	自然流下系浄水場の優先的整備（相模湖系導水路改良事業）					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節	工事請負費	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,619,801				2,619,801
令和5年度	1,835,287				1,835,287
増△減	784,514	0	0	0	784,514

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	526,655	3,941,999	1,835,287	2,619,801	14,009,211	6,095,952	2,554,599
決算・決算見込	0	601,106	3,941,999	1,835,379	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**  
 横浜市水道局では、浄水処理の効率化及びエネルギー有効活用の観点から、「1水源1浄水場」「自然流下系の優先」を基本方針として浄水場の再整備に取り組んでいます。  
 西谷浄水場の再整備では、処理能力や耐震性が不足していることから、浄水処理施設と排水処理施設を再整備します。  
 相模湖系導水路は水源である相模湖から西谷浄水場に原水を送るための管路で、このうち川井接合井から西谷浄水場の区間は、導水能力（約3km）や耐震性（約7km）が不足しています。そのため、川井接合井から西谷浄水場までの新たなルートに、シールド工事で導水管を整備します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 発進・到達立坑の築造及びシールド工など、引き続き工事を進めていきます。  
 また、相模湖系導水路改良事業に関わる川井浄水場活性炭注入設備及び麻溝次亜塩素注入設備の設置に伴う設計業務等も行います。

**【 事業費の内訳 】**

	5年度	6年度
相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）改良事業に係る導水施設整備工事		
相模湖系導水路改良事業に関わる委託業務等		
事務費		
合計	1,835,287	2,619,801

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和3年度 契約締結（4月） 相模湖系導水路（川井接合井から西谷浄水場）改良事業に係る導水施設整備工事

**【 事業スケジュール 】**  
 相模湖系導水路 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み  
 <参考>  
 浄水処理施設 設計・施工期間 令和4年度～令和14年度（約11年間）完了見込み  
 排水処理施設 設計・施工期間 令和3年度～令和9年度（約7年間）完了見込み  
 CM業務委託 委託期間 令和3年度～令和8年度（約6年間）完了見込み

**【 費用対効果分析 】**  
 （安全で良質な水）処理能力の増強に伴う安定給水の確保  
 （災害に強い水道）導水施設、浄水場の更新・耐震化に伴う災害に強い水道施設の構築（耐震化率の向上）  
 （環境に優しい水道）自然流下系給水エリアの拡大に伴うエネルギー消費の抑制

**【 事業開始年度 】**  
 平成29年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	敦賀 仁	酒井 宏朗	磯部 太志

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	設備課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	17
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	エネルギーの効率化を目指した施設整備					
予算科目	水道事業会計	目	基幹施設整備事業費	節	工事請負費	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	83,841	30,000			53,841
令和5年度	614,914	0			614,914
増△減	△ 531,073	30,000	0	0	△ 561,073

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	363,990	1,047,726	852,280	614,914	83,841			
決算・決算見込	513,056	767,236	239,677	733,189	—	—	—	—

【 事業の目的・必要性 】

本市の水道施設は、高台などの地域に水を送るため、ポンプを使用しています。ポンプ設備は多量の水道水を圧送するため電力消費が大きく、環境に負荷がかかっています。

このため、ポンプ設備更新時に、ポンプの回転数を制御することで、給水に必要な分だけポンプを動かす制御機器（VVVF）に変更していきます。このことにより無駄な電力消費がなくなり、効率的で環境にやさしい水道を目指します。

【 令和6年度実施内容の概要 】

- ・ 恩田配水池ポンプ設備更新工事

【 事業費の内訳 】

単位(千円)

区分	5年度予算	6年度予算	増△減
ポンプ設備更新工事			

(参考) 新設するVVVF制御方式の電気盤の一部については、環境省が公募する二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金の対象となっています。

年度	H27	H29	H30	R元	R02	R03	R04	R05	R06
交付額									
	実績							予定	申請予定

【 実績の推移・今後見込み 】

	前中期経営計画				中期経営計画			
	R2年度実績	R3年度実績	R4年度実績	R5年度見込	R6年度見込	R7年度見込	R8年度見込	R9年度見込
導入施設数(延べ数)		15	16	17	18		19	
施設名	—	中尾配水池	鶴見配水池	野毛山配水池	鶴ヶ峰配水池	—	恩田配水池	—

※中期経営計画終了年度（R9年度）には、高圧受電している24か所の配水ポンプ場のうち、19か所がVVVF制御方式に更新される予定です。

【 事業スケジュール 】

恩田配水池：R5～8年度

【 事業開始年度 】

平成27年度

【 根拠法令・データ等 】

—

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	設備設計係
	小野 好信	佐川 実	永井 大輔

【様式6】

令和6年度事業計画書

局課名	水道局	設備課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	高効率モータ使用機器への更新による省エネルギー化				
予算科目	水道事業会計	目	諸設備改良費	節	工事請負費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	30,000				30,000
令和5年度					0
増△減	30,000	0	0	0	30,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	30,000	27,000	33,000	27,000
決算・決算見込					-	-	-	-

【事業の目的・必要性】

水道施設は、多くの電力を使用しており、エネルギーの効率化を進め、環境負荷を低減させていく必要があります。また、「横浜市地球温暖化対策実行計画」より、目標達成に向けて取り組む姿勢を広く発信していくことで、脱炭素化の行動を促し、さらなる温室効果ガス排出削減につなげていく必要があります。

そのため、浄水場やポンプ場などで換気を目的に設置している送排風機を更新に合わせて消費電力の少ない高効率モータ使用機器へ切り換えていきます。

【令和6年度実施内容の概要】

使用年数34年以上\*の送・排風機38台のうち、10台を更新します。

※ 主要な機械設備の局目標更新年数から設定

【事業費の内訳】

(単位：千円)

	R 6	R 7	R 8	R 9	計
更新費等					

【実績の推移・今後見込み】

	R 6	R 7	R 8	R 9	計
更新台数	10台	7台	8台	13台	38台

【事業スケジュール】

「実績の推移・今後見込み」と同様

【費用対効果分析】

電力量は年間12,042kWh、CO2排出量は年間5.49t-CO2の削減効果があります。

	R 6	R 7	R 8	R 9	計
電力削減量 (kWh)	3,380	2,374	3,335	2,953	12,042
CO2削減量 (t-CO2)	1.54	1.08	1.52	1.35	5.49

【事業開始年度】

令和6年度

【根拠法令・データ等】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	設備監理係
	小野 好信	渡辺 浩平	廣瀬 智史

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	総務課・設備課・建設課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	-------------	--------	---	---------	--

事業名称	LED等高効率照明の導入				
予算科目	水道事業会計	目	諸設備改良費	節	委託料/工事請負費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	176,650				176,650
令和5年度	81,600				81,600
増△減	95,050	0	0	0	95,050

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	0	0	81,600	176,650	37,000	59,400	20,700
決算・決算見込	0	0	0	74,895	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**

令和5年1月に改定された「横浜市地球温暖化対策実行計画」では、令和12(2030)年までに公共施設におけるLED等高効率照明の100%導入を目標としています。

本事業では目標達成に向けて、局の所有する庁舎や水道施設の室内照明や外灯等をLED等高効率照明に更新します。令和6年度は、3か所の庁舎・施設について空調設備の更新と併せて工事を実施し、4か所の庁舎・施設についてLED化工事を単独で実施します。

また、令和6年度からESCO事業などの新たな手法の導入を検討し、費用の平準化や今後の事業の加速化を図ります。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

(工事予定箇所)

- ① 空調設備更新等に伴う更新：洋光台水道事務所、川井浄水場(本館)、小雀浄水場本館水質試験室
- ② LED化単独での更新：西谷第2分庁舎、川井浄水場(受電所ほか)、青山水源事務所、川井配水ポンプ場

(設計予定箇所)

- ① 空調設備更新等に伴う更新：菊名ウォータープラザ(庁舎棟)
- ② LED化単独での更新：西谷分庁舎

**【 事業費の内訳 】**

(千円)

	設計費	工事費
洋光台水道事務所		
川井浄水場(本館)		
小雀浄水場本館水質試験室		
西谷第2分庁舎		
青山水源事務所ほか2か所		
西谷分庁舎		
菊名WP(庁舎棟)		
計		

**【 実績の推移・今後見込み 】**

令和12(2030)年までにLED等高効率照明を100%導入する。

令和6年度からESCO事業などの新たな手法の導入を検討し、費用の平準化や事業の加速化を図る。

**【 事業スケジュール 】**

施工場所	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
西谷第2分庁舎、洋光台水道事務所等							
西谷分庁舎、他設計費							
菊名WP、三ツ境水道事務所、他設計費							
鶴見水道事務所、青葉水道事務所、他設計費							
戸塚水道事務所、旧港南・栄事務所、他設計費							
中村WP							
総事業費							

※ESCO事業など新たな手法の導入を検討している庁舎・施設を除く

**【 費用対効果分析 】**

電力使用量及び温室効果ガス排出量の削減

**【 事業開始年度 】**

令和6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

地球温暖化対策の推進に関する法律、横浜市地球温暖化対策実行計画

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	庶務係
	小畑 真子	樋口 雄一郎	高橋 恵

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	設備課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	太陽光発電設備等の導入促進		
予算科目	水道事業会計	目	諸設備改良費
		節	委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	32,000	0	0	0	32,000
令和5年度	0	0	0	0	0
増△減	32,000	0	0	0	32,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	0	0	0	32,000			
決算・決算見込	0	0	0	0	-	-	-	-

**【事業の目的・必要性】**

横浜市地球温暖化対策実行計画（市役所編）において、2030年度における温室効果ガス排出量の削減目標として2013年度比50%削減が示され、水道局としても54%の削減という目標を掲げ取り組みを進めています。また、同計画において「2030年には設置可能な建築物等の約50%に太陽光発電設備が導入され、2040年には100%導入されていることを目指す」と示されており、再生可能エネルギーの導入は必要不可欠となっています。

太陽光発電設備の導入にあたっては、PPA※手法の活用を検討します。

※PPA（Power Purchase Agreement：電力購入契約）：事業者が企業・自治体が保有する施設に太陽光発電設備を設置し、企業・自治体側が発電した電気を購入する契約のこと。設備を所有しないため、初期費用の負担や設備の維持管理をすることなく、再生可能エネルギーの電気を使用することができる。

**【令和6年度実施内容の概要】**

令和6年度においては、川井浄水場でPPA手法による太陽光発電設備の導入に向けた公募の実施を予定しています。計画的な設備導入を図るため、各浄水場、配水池、ポンプ場などにおける、設置可能な場所の検討や地質調査、発電量予測などの太陽光発電設備の導入可能性調査を行います。

あわせて、小水力発電設備についても近年の技術革新により、これまで導入困難とされていた施設にも設置できる可能性が出てきたため、6年度は新たに2施設で導入可能性調査を実施します。

**【事業費の内訳】**

太陽光発電設備		単位(千円)		
区分	5年度予算	6年度予算	増△減	
導入可能性調査委託				
地質調査委託				

小水力発電設備		単位(千円)		
項目	5年度予算	6年度予算	増△減	
導入可能性調査委託 (鶴見配水池、鶴ヶ峰配水池)				

**【実績の推移・今後見込み】**

導入可能性調査の結果や実行計画の目標等を踏まえ、計画的に設備の導入を進めます。

(実行計画の目標)

2030年度：太陽光発電設備を設置可能な建築物等の約50%に設備導入

2040年度：太陽光発電設備を設置可能な建築物等の100%に設備導入

**【事業スケジュール】**

太陽光発電設備

- ・令和6年度上半期：地質調査委託の実施、導入可能性調査委託の実施
- 下半期：プロポーザルによるPPA事業者の公募・決定
- ・令和7年度：受変電設備改良工事、PPA事業者による太陽光発電設備導入

小水力発電設備

- ・令和6年度：導入可能性調査委託の実施
- (※ 調査委託の結果、導入の可能性及び事業性がある場合、事業化を推進)
- ・令和7年度：発注・プロポーザル公募の実施
- 事業者の決定・協定の締結・詳細設計・施工
- ・令和8年度以降：関連工事発注・施工（発電機室築造工事、計装設備改良工事）
- 設置完了後、発電開始

**【費用対効果分析】**

導入想定規模 2,000kWの太陽光発電設備を20年間運用した場合  
(電気料金を、CO2排出原単位を0.457kg-CO2/kWhと想定)

導入容量	2,000 kW
総事業費	
削減量	1,152 t-CO2/年

**【事業開始年度】**

令和6年度

**【根拠法令・データ等】**

地球温暖化対策の推進に関する法律、横浜市地球温暖化対策実行計画

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	設備監理係
	小野 好信	渡辺 浩平	井上 友輔

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	広報課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	18
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	市民ボランティアによる民有林整備の支援					
予算科目	水道事業会計	目	原水費	節		

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	10,062	0	0	0	10,062
令和5年度	10,096	0	0	0	10,096
増△減	△ 34	0	0	0	△ 34

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	9,571	7,990	9,944	10,096	10,062	10,062	10,062	10,062
決算・決算見込	1,655	2,815	8,441	10,096	-	-	-	-

【事業の目的・必要性】

道志村の民有林の中には、荒廃の進む恐れのある森林が多くあり、森林の持つ水源かん養機能の低下が懸念されています。このため、市民ボランティアの方々と協働して、水原林保全の大切さを多くの市民の皆様にご存知いただくためのPRを実施します。また、この活動を継続的に支援していくため、ボランティアの活動資金を市民・企業等からの寄附金による「横浜市水のみと道志の森基金」を活用します。

【令和6年度実施内容の概要】

- ・寄附申込書、電子申請、ふるさと納税ポータルサイトなどからの寄附受付
- ・道志の森サポーター登録団体からの寄附受付
- ・ボランティア団体の活動支援・助成
  - NPO法人道志水源林ボランティアの会による間伐活動 13回程度、延べ650人程度参加
  - その他ボランティア団体による間伐活動 3団体、延べ100人程度参加

【事業費の内訳】

(単位：千円)

節	R6予算額	用途等
水源林ボランティア事業費	8,600	ボランティア活動に対する助成金
道志川系統原水費	1,462	
備消耗品費		木製ネームプレート、感謝状作成
印刷製本費		寄附募集リーフレット印刷、ボラ会チラシ印刷
通信費		申込はがきの受取人払郵便料金
委託料		リーフレットデザイン委託
手数料		インストラクター受講費用
賃借料		スキルアップ研修バス借上
火災損害保険料		グリーンボランティア保険
負担金		ふるさと納税ポータルサイト経費、共通返礼品調達経費

【実績の推移・今後見込み】

- ・基金残高

(単位：千円)

	R2	R3	R4	R5(見込)	R6
収入額計	10,685	13,725	12,267	40,002	9,772
基金取崩額	1,655	3,463	7,815	8,779	9,350
基金残高	71,204	81,466	85,918	117,141	117,563

- ・ボランティア団体の活動

	R2	R3	R4	R5(見込)	R6
NPOボラ会	活動回数(回)	0	4	14	13
	延べ参加者数(人)	0	129	587	627
その他団体	団体数(団体)	0	2	3	3
	延べ参加者数(人)	0	35	131	155

※R4・R5は自主研修含む

【事業スケジュール】

- ・寄附の受付、返礼品等事務手続(通年)
- ・寄附募集リーフレット印刷(9月ごろ)、基金の周知のため、市民利用施設等に配架
- ・NPO法人の活動：4～11月。13回予定。
- ・その他団体の活動：4月申請。5～11月活動。12月報告、助成金交付。
- ・NPO法人のインストラクター養成事業：通常の間伐活動の中で実技実習。年度内に認定。
- ・「道志の森インストラクター」スキルアップ研修：3月実施。

【費用対効果分析】

継続的な寄附金を募ることにより、安定的な道志水源林ボランティア事業の支援につながります。

【事業開始年度】

平成18年度

【根拠法令・データ等】

横浜市水のみと道志の森基金条例、同事業実施要綱、「横浜市水のみと道志の森基金」寄附受納事務取扱要領、横浜市への「ふるさと納税」事業実施要綱、協働事業「道志水源林ボランティア事業」に関する協定、NPO及びボランティア団体の道志水源林保全活動に対する助成要綱、道志水源林ボランティア活動における道志の森インストラクター等に関する要綱

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	
	鳥山 由美	山崎 健司	石塚 直人



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	広報課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	21
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	市民ニーズ等を踏まえた情報発信（印刷物等）				
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	8,620	0	0	0	8,620
令和5年度	5,050	0	0	0	5,050
増△減	3,570	0	0	0	3,570

1

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	14,182	18,450	11,250	5,050	8,620	7,740	7,740	7,740
決算・決算見込	1,937	13,353	7,668	5,050	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

水道事業についてお客さまに御理解いただくため、関心の高い水質や災害対策に関する情報のほか、水道の仕組みや老朽化した浄水場や送配水管等の施設の更新・耐震化の必要性、横浜水道の歴史などについてお伝えします。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

事業目的を達成するため、広報ツールとしての各種印刷物等の制作や広報動画の放映などを行います。

**【 事業費の内訳 】**

（単位：千円）

節	R6予算額	用途等
備消耗品費		イラストレーターライセンスの購入
印刷製本費		パンフレット等の印刷
委託料		パンフレット等のデザイン委託、パネルの製作
広告料		広報動画の交通・YouTube広告、5事業体共同広報
負担金		「健康のため水を飲もう」推進運動
機械器具備品購入費		はまピョン着ぐるみ買い替え
合計	8,620	

**【 実績の推移・今後見込み 】**

- 次の広報印刷物は継続発行（※の印刷物はおおむね3年ごとにデザイン委託）  
 横浜の水道 [毎年]、横浜水道ガイド※ [毎年]、はまピョン水の旅※ [毎年]、横浜水道の歩み [必要に応じて]、局報みずごよみ [隔月]、水道について考えようパネル展用パネル [毎年]、横浜市水道局の災害対策 [必要に応じて]
- 歴史広報動画制作・放映実績  
 素材撮影 (R 3)、制作 (R 4)、交通・YouTube広告 (R 5～)
- 負担金支出事業は継続参加  
 「健康のため水を飲もう」推進運動（ポスター掲出）
- 5事業体共同広報事業は継続参加  
 R 6年度は事務局のため、負担金ではなく広告料で予算計上

**【 事業スケジュール 】**

- 広報印刷物発行時期：横浜の水道 [年度末(翌年度使用分)]、横浜水道ガイド [11月頃]、はまピョン水の旅 [年度末(翌年度使用分)]、横浜水道の歩み [適宜]、局報みずごよみ [偶数月]、横浜市水道局の災害対策 [下半期]
- 広報動画PR [10月など(近代水道創設記念PRの一環)]
- 負担金支出事業：「健康のため水を飲もう」推進運動 [6月]
- 5事業体共同広報の実施 (R 6年度は事務局) [6月]

**【 費用対効果分析 】**

アンケートにおける水道局広報物の認知度、広報動画のYouTube再生回数、WEBサイトやX（旧Twitter）のパフォーマンス実績等の指標を用いて、効果測定します。

**【 事業開始年度 】**

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	鳥山 由美	村田 尚子	桑原 忍

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	サービス推進課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	22
-----	-----	---------	--------	---	---------	----

事業名称	市民ニーズ等を踏まえた情報発信（出前水道教室等）					
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節	備	備消耗品費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	372				372
令和5年度	180				180
増△減	192	0	0	0	192

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	3,934	752	150	180	372	372	372	372
決算・決算見込	177	75	123	180	-	-	-	-

債務負担設定	設定年度		設定期間	～	限度額	
--------	------	--	------	---	-----	--

**【 事業の目的・必要性 】**

出前水道教室は、水道事業への理解を深めていただくことを目的に、小学4年生の社会科学習の一環として平成16年度から実施しています。

防災訓練は、区役所や自治会及び町内会と連携し、飲料水備蓄の必要性や災害時給水所の開設方法等を周知することで、災害により断水等が発生した場合に備えた行動を促します。

また、水道事務所では、地域からの要請に基づき必要に応じて、区民まつりなどの地域イベントに参加していきます。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

出前水道教室は、令和5年度に引き続き、職員が小学校に出向く学習プログラムに加え、YouTubeにアップロードした動画も併用しながら実施します。

防災訓練は、災害時の飲料水確保のための応急給水訓練や防災ライセンス講習会等を、区役所や自治会及び町内会と連携し引き続き実施します。

必要に応じて区民まつりなどの地域で開催されるイベントに参加していきます。

**【 事業費の内訳 】**

備消耗品費	362千円
火災損害保険料	10千円
	372千円

**【 実績の推移・今後見込み 】**

年度	出前水道教室		パネル展等		防災訓練等	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
3年度実績	117回	9,610人	23回	4,254人	155回	2,267人
4年度実績	151回	12,601人	32回	271,540人	175回	10,683人
5年度見込	150回	12,000人	30回	270,000人	170回	10,000人
6年度見込	150回	12,000人	30回	270,000人	170回	10,000人

※令和4年度「パネル展等」は、「ベトナムフェスタin神奈川2022」(180,000人)、中区民まつりハローよこはま2022(参加者65,000人)を含む。

**【 事業スケジュール 】**

通年

**【 費用対効果分析 】**

出前水道教室は、従来の「職員の出張による授業」に加え新たに「YouTube等動画による授業（職員出張なし）」や、「WEB会議端末を利用したリモート授業」を開始し、各学校や各水道事務所の状況により、実施形態を選択できるようにしています。

防災訓練については、区役所や自治会町内会のご要望に合わせて訓練を行うことで、効果的なPRができています。

**【 事業開始年度 】**

平成16年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業企画係
	中村 勝利	多田 広晃	松本 武

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	広報課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	23
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	市民ニーズ等を踏まえた情報発信（イベント等）					
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節		

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	6,670	0	0	0	6,670
令和5年度	6,370	0	0	0	6,370
増△減	300	0	0	0	300

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	6,770	3,920	5,535	6,370	6,670	6,670	6,670	6,670
決算・決算見込	1,497	3,882	4,315	6,370	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

水道事業についてお客さまに御理解いただくため、関心の高い水質や災害対策に関する情報のほか、水道の仕組みや老朽化した浄水場や送配水管等の施設の更新・耐震化の必要性、横浜水道の歴史などについて、イベントなどの直接対話の機会を通じてお伝えします。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

- ・水道週間：桜木町駅前にてイベントを実施
- ・水を学び水に親しむプログラム：市役所アトリウムにてイベントを実施
- ・水の日：YouTubeへ広告配信、水循環冊子製作、市役所アトリウムにてイベントを実施
- ・水道事業のPR（フォトコンテスト）：横浜水道にまつわるフォトコンテストの実施
- ・大学連携による水道啓発事業：水源林間伐体験等の実施
- ・近代水道創設記念：市役所等にて横浜水道の歴史に関する展示を実施

**【 事業費の内訳 】**

（単位：千円）

節	R6予算額	用途等
委託料		水道週間
		水を学び水に親しむプログラム
		近代水道創設記念
		水道事業のPR（フォトコンテスト）
		大学連携による水道啓発事業
負担金		水の日
報償費		大学連携による水道啓発事業
賃借料		大学連携による水道啓発事業
火災損害保険料		大学連携による水道啓発事業
<b>合計</b>	<b>6,670</b>	

**【 実績の推移・今後見込み 】**

■令和5年度

- ・水道週間：桜木町駅前イベント（6月3日）※荒天のため中止
- ・水を学び水に親しむプログラム：市役所アトリウムイベント（8月23日）
- ・水の日：YouTubeへ広告配信、水循環冊子製作、市役所アトリウムイベント（8月23日）
- ・水道事業のPR（フォトコンテスト）：5つの水源を対象としたフォトコンテスト  
（募集：8月～9月 展示会：1月～3月）
- ・大学連携による水道啓発事業：道志水源林間伐体験（9月）
- ・近代水道創設記念：近代水道歴史展示（10月16日～10月19日）

**【 事業スケジュール 】**

- 6月：「水道週間」イベント実施
- 6～7月：「水の日」YouTubeへ広告配信、水循環冊子製作
- 8～9月：「水道事業のPR（フォトコンテスト）」実施
- 8月：「水を学び水に親しむプログラム」及び「水の日」イベント実施
- 9月：「大学連携による水道啓発事業」水源林間伐体験等の実施
- 10月：「近代水道創設記念」展示会

**【 費用対効果分析 】**

- ・イベントの参加者数（参考：令和5年度実績）  
水を学び水に親しむプログラムの場合：約500人
- ・アンケートにおける水道事業の理解度（参考：令和5年度実績）  
水を学び水に親しむプログラムの場合：  
イベントに参加した約99%の方が、「イベントを通じて水源林保全への理解が深まった」と回答

**【 事業開始年度 】**

**【 根拠法令・データ等 】**

- ・水の日：水循環基本法 第5条 第10条

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	鳥山 由美	本田 大地	田中 梨紗子

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	給水スポット設置による水道水のPR				
予算科目	水道事業会計	目	諸設備新設費・建設改良費・給水費	節	工事請負費・固定資産購入費・委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	7,348				7,348
令和5年度					0
増△減	7,348	0	0	0	7,348

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	7,348	22,044	44,088	0
決算・決算見込						-	-	-

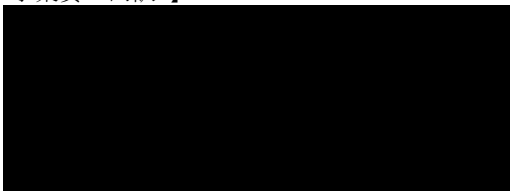
【 事業の目的・必要性 】

未来を担う子どもたちやその保護者に、横浜市の水道水が良質であることを実感し、知ってもらうとともに横浜水道の理解を深めてもらうことを目的に、遊びや遠足で来園することの多い動物園に、給水スポットを設置します。

【 令和6年度実施内容の概要 】

令和6年度は野毛山動物園内に給水スポット1基を設置します。

【 事業費の内訳 】



計 6,680千円

【 実績の推移・今後見込み 】

令和7年度以降は、金沢動物園及びよこはま動物園ズーラシアに給水スポットを設置予定です。また、国際園芸博覧会へ給水スポットを設置できるかどうか、検討していきます。

【 事業スケジュール 】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
設置場所	野毛山動物園	金沢動物園又は、よこはま動物園ズーラシア	金沢動物園又は、よこはま動物園ズーラシアと国際園芸博覧会
費用及び給水スポット設置数	6,680千円 (1基)	20,040千円 (3基)	40,080千円 (6基)

※税抜き価格です

【 費用対効果分析 】

未来を担う子どもたちとその保護者に横浜市の水道水が良質であることを実感し、知ってもらうとともに横浜水道の理解を深めてもらいます。

【 事業開始年度 】

令和6年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水事務係
	浅岡 祥吾	藤本 孝	高瀬 祐汰

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	サービス推進課課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	----------	--------	---	---------	--

事業名称	水道に関する情報照会や手続きに関するオンライン化の拡充					
予算科目	水道事業会計	目	業務費	節	手数料	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	15,662				15,662
令和5年度	16,000				16,000
増△減	△ 338	0	0	0	△ 338

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				16,000	15,662	18,277	14,724	15,853
決算・決算見込				16,000	—	—	—	—

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**  
 水道料金等の口座振替については、お客さまに「口座振替依頼書」への記入と口座届出印の押印いただき、その依頼書を水道局から金融機関へ申請しています。この手続きは横浜DX戦略の一環として、お客さまからのお申込みと水道局からの申請をWEBで可能とすることを目的としています。令和6年度については、通年の稼働に係る経費と令和6年度に収納取扱金融機関に加わる金融機関への契約料が必要となります。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 サービス会社や金融機関への利用料のほか、新規の収納取扱金融機関への契約を行います。

**【 事業費の内訳 】**  
 令和6年度

	サービス会社	金融機関
契約料等 (委託料)		
基本料金等 (委託料)		
手数料		
合 計		15,661,543円

※受付件数 概算34,872件 (62,991件の55.36%)  
 ※契約料 金融機関は4行を想定  
 紙の受付 (現行の郵送や登録料等)

**サービス会社**

- ・ 基本料金+回線使用料 (月)
- ・ 手数料 (1件)

**金融機関**

- ・ 契約料 (1行)
- ・ 手数料 (1行)

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和7年度

	サービス会社	金融機関	件数
基本料金等 (委託料)			
手数料			43,590 件

令和8年度

	サービス会社	金融機関	件数
基本料金等 (委託料)			
手数料			47,077 件
合 計		14,723,100円	

令和9年度

	サービス会社	金融機関	件数
基本料金等 (委託料)			
手数料			50,843 件
合 計		15,852,900円	

**【 事業スケジュール 】**  
 令和6年度と令和7年度は、新規で収納契約を締結予定の金融機関と契約を行います。(4行予定)  
 また、令和5年度に契約したサービス会社へ基本料金と手数料、金融機関へ手数料を支払います。  
 令和8年度以降は、契約金融機関の増加は行わない予定ですので、ランニングコストのみとなります。

**【 費用対効果分析 】**  
 6年度は5年度と比較し、契約料が減るため、予算は減少します。  
 また、Web口座受付システムで口座振替依頼書の送付及びお客さまからの返送に掛かる郵送料、口座振替入力委託業務の1次受付が減少します。  
**【参考】削減見込額**  
 $34,872 \text{件} \times 73 \text{円} = 2,545,583 \text{円} \Rightarrow 2,546 \text{千円削減}$   
 ※WEB受付           円/件  
 ※紙ベース           円/件 差額 73円/件

**【 事業開始年度 】**  
 令和5年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	料金管理係
	中村 勝利	青木 徹	大川 悠子

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	サービス推進課料金システム係	新規拡充事業	—	事業評価書番号	20
-----	-----	----------------	--------	---	---------	----

事業名称	スマートメーターの導入に向けた取組 (スマートメーター(自動検針システム)第1次モデル事業の業務委託の推進)					
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	調査研究費	

(単位: 千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,300				2,300
令和5年度	2,000				2,000
増△減	300	0	0	0	300

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	4,000	4,000	2,000	2,000	2,300	2,900	2,900	2,700
決算・決算見込	2,231	1,970	2,037	2,349	—	—	—	—

債務負担設定	設定年度	令和5年	設定期間	R5 ~ R9	限度額	15,300
--------	------	------	------	---------	-----	--------

**【事業の目的・必要性】**

「スマートメーター」とは、無線通信等により遠隔で指針値等のデータを取得できるメーターです。  
 本事業は、ICT技術の活用による事業効率化が求められる昨今、水道事業の効率化やお客さまサービスの向上、将来的な検針業務の持続による安定した経営基盤の保持に、スマートメーターをどのように活用できるのかを見極め、本格導入への足掛かりとするため、横浜市緑区十日市場町周辺地域を「モデル地区」に設定し、対象物件にスマートメーターを設置し、自動検針を行い、取得したデータによる料金調定を令和2年11月から開始しました。(第1次モデル事業)  
 なお、令和5年8月末に委託履行期限が満了になることから、令和4年度の「スマートメーター導入推進P J」で検討した結果、委託事業を更新し、事業を継続することとしました。

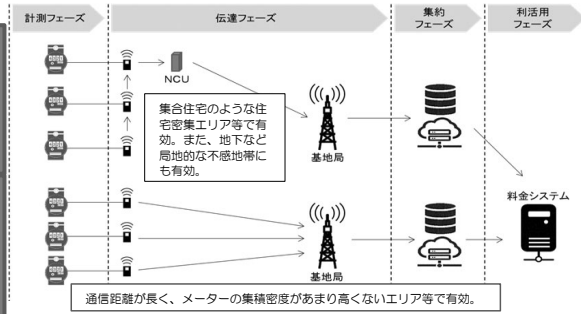
**【令和6年度実施内容の概要】**

令和5年度以降についても、通信機器の保守及び検針データの送信を継続して委託業務で行います。

**【事業費の内訳】**

方式1	方式2
<b>【通信方式】</b>	
スター方式	マルチホップ方式
メーター設置数	
329箇所	132箇所
運用保守費用/年(令和4年度決算)	
緊急調査・緊急保守・通信費・データSC利用料・データ配信費	
1,063千円	975千円
<b>令和6年度予算</b>	
<b>1,639千円</b>	<b>1,163千円</b>

マルチホップ方式  
スター方式



**【実績の推移・今後見込み】**

令和元年度 実用技術方式選定業務委託(コンサルティング)を実施、委託仕様書を作成。  
 令和2年度 構築および運用保守事業者決定、スマートメーターを設置、データ通信試験を開始。  
 データ通信試験、検針値整合性比較検証、自動検針業務フロー策定  
 ・本格稼働(自動検針および取得データを使用して料金調定)を開始。(R2.10月~)  
 ・「給水サービス事務オンラインシステム」開発と並行してデータ連携等のテストおよび検証の実施(～R3.3月)  
 令和3年度 給水サービス事務オンラインシステムと自動でデータ連携を行い、料金調定を開始。  
 令和4年度 スマートメーターによる自動検針および料金調定を継続。  
 令和5年度 委託契約期間満了(～R5.8月)に伴い、委託契約を更新。(R5.9月~)  
 令和6年度~ スマートメーターによる自動検針及び料金調定を継続し、検針業務の効率化に伴う事務処理等の把握や、機器の電池寿命や故障率などの技術的要素について、運用実績に基づく知見の蓄積を見込んでいます。

**【事業スケジュール】**

契約期間: 令和5年9月1日から令和9年8月31日まで(方式1:スター方式)  
 令和5年9月1日から令和8年10月31日まで(方式2:マルチホップ方式)  
 ※契約期間の差異は、メーター設置時期の相違により検定満期の満了年月が違うためです。

**【費用対効果分析】**

高価な電子式水道メーターや通信機器を無駄なく利用できます。  
 また、過去4年間の運用実績により、令和5年度契約から運用保守費用の低減化を実現しました。今後は、通信費等の低減化が進めば更なるコスト削減が期待できます。

**【事業開始年度】**

令和5年度

**【根拠法令・データ等】**

自治法214条「歳出予算の金額、継続費の総額又は繰越明許費の金額の範囲内におけるものを除くほか、普通地方公共団体が債務を負担する行為をするには、予算で債務負担行為として定めておかなければならない。」

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	料金システム係
	中村 勝利	上倉 悟	柿沼 大

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	スマートメーターの導入に向けた取組 (共同検針に使用可能な水道スマートメーターの検証 (共同研究))				
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	調査研究費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	1,000				1,000
令和5年度	0				0
増△減	1,000	0	0	0	1,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	1,000			
決算・決算見込						-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

当局では、第2次モデル事業として水道スマートメーターを使用した共同検針の実証実験を計画しているが、共同検針で使用可能な通信機は、現在制作中であり、水道メーターの設置環境における通信検証ができていない状況である。第2次モデル事業を円滑に進めるためには、新たに開発される通信機器等の事前検証が必要であることから本研究を行うものである。

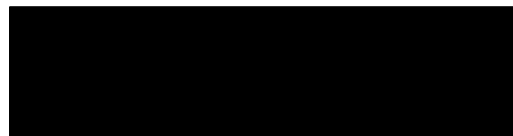
【 令和6年度実施内容の概要 】

一般送配電事業者及び水道メーターメーカーから検証に必要な機器類の提供を受け、当局が提供する局内フィールドに水道スマートメーターを設置し、電力スマートメーターとの通信検証を行う。  
通信検証では通信機の設置環境（埋没、水没等）を変えて検証するとともに電力スマートメーターとの通信距離についても検証する。

【 事業費の内訳 】

共同検針用通信端末の提供及び開発・改良  
電力スマートメーターの提供  
(一般送配電事業者 (関係事業者含む))

電子式水道メーターの提供及び通信機の接続・設定  
(水道メーターメーカー)



合計 100万円

【 実績の推移・今後見込み 】

本研究は第2次モデル事業を実施する前に行う事前検証が目的であるため、令和6年度で完了する。

【 事業スケジュール 】

4月～7月 相手企業募集及び契約等手続き  
8月～1月 検証期間  
2月 検証結果まとめ・報告

【 費用対効果分析 】

本研究により、共同検針用水道スマートメーターの使用上の課題を洗い出し、対処することで第2次モデル事業のスムーズな実施に繋げる。

【 事業開始年度 】

令和6年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	水道メーター係
	浅岡 祥吾	竹村 太郎	高橋 宏之

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	国際事業課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	25, 26
-----	-----	-------	--------	---	---------	--------

事業名称	国内外水道事業への貢献と市内企業の海外水ビジネス展開支援					
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節	旅費他	

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	46,602	2,800				46,602
令和5年度	43,342	6,632				43,342
増△減	3,260	△ 3,832	0	0	0	3,260

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	66,222	59,832	40,071	43,342	46,602	24,306	11,529	11,806
決算・決算見込	1,170	1,902	4,325	25,822	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**

様々な課題を抱える国内外水道事業体の課題解決や経営基盤強化に向け、横浜ウォーター(株)やJICA等と連携し、職員派遣や研修員の受入れなどを通じて、必要な技術・ノウハウを提供します。  
 また、これまでの国際協力で海外水道事業体等と築いた信頼関係やネットワークを活かし、横浜水ビジネス協議会会員企業に対し、企業PR機会の提供や、国際協力の中で把握した海外水道事業体の課題・ニーズ等の情報提供を行うことにより、海外水ビジネス展開支援を推進します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

- ・横浜ウォーター(株)国内研修事業等における連携：研修での講義や施設の提供等
- ・マラウイ国リロングウェ市無収水対策能力強化プロジェクト：職員派遣
- ・インドネシア国北スマトラ州水道公社へのJICA草の根技術協力事業：職員派遣及び受入れ
- ・海外水ビジネス展開支援：研修員受入れ時等の企業PR機会提供、国際展示会への出展等

**【 事業費の内訳 】**

単位：千円

事業内容	令和6年度	令和5年度	増△減
マラウイリロングウェ市無収水対策能力強化プロジェクト	2,250	1,400	850
インドネシア国北スマトラ州水道公社へのJICA草の根技術協力事業	33,242	26,810	6,432
ベトナム4機関との覚書に基づく相互協力事業	550	1,250	△ 700
国際会議出展及び横浜水道プロモーション	3,070	2,050	1,020
横浜水ビジネス協議会等との連携	100	100	0
自治体水道国際展開プラットフォームとの連携	0	100	△ 100
国際人材育成、国際会議での論文発表	3,190	1,590	1,600
国際協力事業運営経費等	2,780	8,522	△ 5,742
横浜ウォーター株式会社との連携推進等	1,420	1,520	△ 100
合 計	46,602	43,342	3,260

**【 実績の推移・今後見込み 】**

単位：人

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度(見込)
国内研修受講者数	200	310	348
海外研修員の受入れ	人数	0 (222 <sup>※1</sup> )	99 (62 <sup>※1</sup> )
	人数累計	4,277	4,347
職員の海外派遣	人数	3 (52 <sup>※2</sup> )	20 (3 <sup>※2</sup> )
	人数累計	460	468

※1 オンラインによる研修・セミナーを受講・参加した(予定)研修員等の人数

※2 オンラインによる研修・セミナーに講師等で参加した(予定)局職員の人数

**【 費用対効果分析 】**

水道局は、国内外水道事業体等が抱える課題解決に向けて、水道局が有する技術・ノウハウや施設等を横浜ウォーター株式会社を介して提供し、その対価(人件費、施設使用料等)を収入しています。  
 また、国際貢献事業を通じて蓄積された経験や海外水道事業体等との信頼関係、ネットワークを横浜水ビジネス協議会会員企業の海外水ビジネス展開支援に活用することにより、地域経済の活性化につながることを期待されます。  
 さらに、水道局職員が国内外水道事業体の課題の解決に携わり、局内では得られない経験を積むことにより、職員の能力向上が図られ、局の技術・経営力の強化に繋がります。

**【 事業開始年度 】**

- ・国際貢献の推進：昭和48年度(職員の海外派遣開始)
- ・横浜ウォーター(株)設立：平成22年度
- ・海外水ビジネス展開支援：平成22年度

**【 根拠法令・データ等 】**

厚生労働省「新水道ビジョン」、横浜市中期4か年計画、横浜市国際戦略、横浜水道長期ビジョン、横浜水道中期経営計画、横浜水ビジネス協議会要綱

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	係
	卯都木 優子	高橋 大介	富井 剛志



## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	障害者就労施設等からの優先調達				
予算科目	水道事業会計	目	配水費、給水費、業務費、総係費	節	備消耗品費・委託料・印刷製本費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	18,238				18,238
令和5年度	17,046				17,046
増△減	1,192	0	0	0	1,192

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	15,239	15,641	15,741	17,046	18,238	18,238	18,238	18,238
決算・決算見込	13,023	11,957	14,084	15,601	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**  
 障害者就労施設等に各種業務を委託することを通じて障害者の雇用促進を図り自立支援を行います。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 1：点字印刷物作成委託：目の不自由なお客さまへお渡しする点字の水道料金・下水道使用料、支払い済のお知らせ作成、封入及び発送作業を委託します。  
 2、3：「水道メモセット用紐付きビニール袋」作成作業ほか：新たに入居されるお客さまへお渡しする、水道局からのお知らせ等の冊子類（水道メモセット）を封入する袋の作成、袋への封入作業を委託します。  
 6：水源林保全の啓発のため、横浜市の水源地「山梨県道志村」の森林を整備する際に出るヒノキの間伐材を細かく砕いたウッドチップを、各イベントでノベルティとして配布するためにウッドチップを袋詰めする作業を委託します。  
 7：水道施設敷地内の緑地部分雑草除去作業や清掃作業を委託します。  
 8：出前水道教室で使用する小学生向けパンフレット「はまピョン水の旅」について、小学校ごとの梱包、配送作業を委託します。  
 9：再利用できなくなった水道メーターを金属とプラスチック等に分解する作業を委託します。  
 10：障害のある方の社会参加の機会を増やすとともに、窓口環境の向上を目的に、障害福祉事業所と連携してフラワーアレンジメントを作製し、窓口に展示する事業です。

(単位：千円)

事業内容		令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度 決算	令和5年度 予算	令和6年度 予算
1	点字印刷物作成委託	581	375	385	600	
2	「水道メモセット用紐付きビニール袋」作成作業	1,924	1,228	1,999	2,200	
3	水道メモセット封入作業委託	1,620	993	1,936	2,640	
4	イベント配布品等作成（サービス推進課、三ツ境水道事務所）	720	0	0	5	
5	災害時給水マップ封入作業	578	498			
6	ウッドチップの袋詰め・シール貼り等業務委託				100	
7	敷地内除草作業委託、清掃作業委託	539	539	750	1,660	
8	パンフレット「はまピョン水の旅」の梱包作業委託	705	0	658	900	
9	水道メーター分解作業委託	6,356	8,324	8,356	8,941	
10	花のおもてなし事業委託					
11	その他（事務作業等）					
計		13,023	11,957	14,084	17,046	18,238

**【 事業スケジュール 】**  
4月から随時発注

**【 費用対効果分析 】**  
各種業務を障害者就労施設に委託することから、障害者の雇用促進を図り自立支援につながります。

**【 事業開始年度 】**  
平成25年

**【 根拠法令・データ等 】**  
障害者優先調達推進法

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	契約係
	大矢 雅幸	内田 清亮	柿沼 寿々佳

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (露出管路の防食・更新に係るアセットマネジメント)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費・諸設備新設費・諸設備改良費	節	委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	100,000				100,000
令和5年度	0				
増△減	100,000				100,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	0	0	0	0	100,000	30,000		0
決算・決算見込	0	0	0	0	-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【事業の目的・必要性】**  
 埋設管路については、布設条件等により細かに耐用年数が定められている一方、露出管路にあつては条件が多岐にわたるため、明確な更新等の基準がない。また、防食(外面)を健全に保つていても、管そのものの耐用年数超過による漏水が生じることがあり、場当たりの対応を余儀なくされている。このため、各条件に基づく防食の耐用年数・管の耐用年数設定が必要であり、外観での判別が行えない管で耐用年数が超過したものは、基準を定めて機械的な更新を実施することで、事故の未然防止と予算支出の平準化を行うとともに、不適当な防食更新の支出を避ける必要がある。

**【令和6年度実施内容の概要】**  
 当局が所有する約800橋の水管橋のうち、各条件別に100橋程度の詳細現況調査等を実施。設置条件や重要度別のリスクマトリクスを設定、調査結果と掛け合わせた更新基準(案)・維持管理計画(案)を策定する。併せて、布設替えによる更新を基本としていた管本体の更新について、延命化方策を検討する。

**【事業費の内訳】**

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
調査等委託※	調査等委託※	施設分類作業	延命化・更新等
マップ改定	更新基準精査	更新計画策定	策定計画による
更新基準策定	管理計画精査		
管理計画策定	方針決定		
計	計	計	計

※委託費内訳 業務計画・資料収集等準備  
 現地調査  
 基準・計画 報告書作成

**【実績の推移・今後見込み】**

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
詳細調査 マップシステム構築(改定) 更新基準(案)策定 維持管理計画(案)策定	更新基準(案)精査 維持管理計画(案)精査 方針決定	基準に基づく施設分類 更新計画策定	延命化・更新等施策の反映 ※本事業の枠組みとして行う場合

**【事業スケジュール】**  
 同上

**【費用対効果分析】**  
 ・概ね10年に1回実施する、防食更新900万円/橋(直近5年実績平均)を1年延伸できた場合  
 ⇒90万円(900万円の1/10年)×800橋=7.2億円縮減(2年で14億円、3年で21億円…)  
 ・管路更新3000万円/橋(想定)に代えて、延命化工法1500万円/橋(想定)を行う場合  
 ⇒1,500万円(更新差額)×800橋=120億円縮減  
 ・不適切な防食更新(管耐用年数が訪れているにも関わらず、防食を更新するケース)を回避できた場合  
 ⇒2.7億円(R3、R4に実施した7橋のPCB塗膜除去費)/2年=1.35億円/年  
 ※PCB塗膜除去では緊急性のため直ちに塗膜除去としたが、漏水多発により大半で布設替えの必要性が生じた。

**【事業開始年度】**  
 令和6年度

**【根拠法令・データ等】**  
 水道法 第二十二の二、水道法施行規則 第十七条の二第四項、河川法第十五条の二

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡祥吾	中澤祐貴	鈴木雅博

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (仕切弁点検調査委託及びボルトナット交換)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費・諸設備新設費	節	委託料・修繕費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	267,852				267,852
令和5年度	156,516				156,516
増△減	111,336	0	0	0	111,336

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				156,516	267,852	391,160	353,931	357,283
決算・決算見込					-	-	-	-

【	事業の目的・必要性】																																													
	<p>令和5年度に発生した、仕切弁ボルト・ナット腐食による仕切弁の離脱事故を受け、周辺地域の仕切弁・消火栓を緊急点検したところ、ボルト・ナットの一部分が消失し、同様の離脱事故が発生する可能性がある仕切弁が複数確認されました。</p> <p>つきましては、市内全域において同様の状態である仕切弁が多数存在すると考えられるため、今後の事故再発防止を目的として仕切弁の点検調査を実施します。</p> <p>調査対象については、平成27年度に実施した「新技術・新工法専門委員会」の調査結果及び、令和5年度に実施した緊急点検調査の結果から、大口径からの分岐第一バルブと昭和63年度以前に設置された仕切弁併せて約34,000基を対象とします。点検調査の結果、修繕工事が必要と判断した仕切弁につきましては、水道事務所の管内一円工事(配水管漏水修理工事)にて修繕を実施します。</p>																																													
【	令和6年度実施内容の概要】																																													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の対象とした仕切弁約34,000基のうち、8,000基の点検調査を実施します。</li> <li>・調査の結果、緊急な修繕が必要と判断した仕切弁3,200基について、ボルト・ナット交換を実施する。</li> </ul>																																													
【	事業費の内訳】																																													
	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">事業費</td> <td style="width: 15%;">【点検調査費】</td> <td style="width: 70%; background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>【修繕費】</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>【点検調査費】</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>【修繕費】</td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>【合計】</td> <td style="text-align: right;">267,852,000円</td> </tr> </table>	事業費	【点検調査費】			【修繕費】		令和6年度	【点検調査費】			【修繕費】			【合計】	267,852,000円																														
事業費	【点検調査費】																																													
	【修繕費】																																													
令和6年度	【点検調査費】																																													
	【修繕費】																																													
	【合計】	267,852,000円																																												
【	実績の推移・今後見込み】																																													
	<p>■計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和9年度までに約34,000基の点検調査を実施する。</li> <li>・ボルト・ナットの交換が必要な仕切弁については、令和10年度までに交換を実施する。</li> </ul>																																													
【	事業スケジュール】																																													
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>点検調査基数</td> <td>4,013</td> <td>7,233</td> <td>7,953</td> <td>6,791</td> <td>7,211</td> <td>33,201</td> </tr> <tr> <td>予算(千円)</td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和5年度</th> <th>令和6年度</th> <th>令和7年度</th> <th>令和8年度</th> <th>令和9年度</th> <th>令和10年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修繕基数</td> <td>482</td> <td>3,115</td> <td>5,004</td> <td>5,269</td> <td>4,668</td> <td>4,038</td> <td>22,576</td> </tr> <tr> <td>予算(千円)</td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> <td style="background-color: black;"></td> </tr> </tbody> </table>		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計	点検調査基数	4,013	7,233	7,953	6,791	7,211	33,201	予算(千円)								令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	合計	修繕基数	482	3,115	5,004	5,269	4,668	4,038	22,576	予算(千円)							
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	合計																																								
点検調査基数	4,013	7,233	7,953	6,791	7,211	33,201																																								
予算(千円)																																														
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	合計																																							
修繕基数	482	3,115	5,004	5,269	4,668	4,038	22,576																																							
予算(千円)																																														
【	費用対効果分析】																																													
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕切弁の離脱事故に伴い発生する突発的な断水、仕切弁修繕作業を未然に防止することで、突発対応にかかる時間と費用を削減します。</li> <li>・修繕作業を実施するために必要な、大規模な水運用作業等を未然に防止します。</li> </ul>																																													
【	事業開始年度】																																													
	令和6年度																																													
【	根拠法令・データ等】																																													
	水道法 第二十二の二、水道法施行規則 第十七条の二第四項																																													

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	岡田 凜太郎

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (平受け方式のマンホール蓋改良事業)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費・諸設備新設費	節	修繕費・委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	266,234				266,234
令和5年度					0
増△減	266,234	0	0	0	266,234

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	266,234	未定	未定	未定
決算・決算見込					-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

この事業は、令和5年度に発生した平受け方式の仕切弁マンホール蓋脱落事象を受け、同様な構造で異常のある(鉄蓋と受枠に段差が生じている)弁室を補修・交換する事業です。この事象は、弁室の受枠の劣化により、鉄蓋が弁室内に脱落したと想定され、交通量の多い幹線道路内で発生したこともあり、重大な公衆災害となる可能性もあったと捉えています。

【 令和6年度実施内容の概要 】

令和6年度は、被害想定の大い緊急輸送道路(1次及び2次)に設置されている平受け方式のマンホール蓋の内、異常のある(鉄蓋と受枠に段差が生じている)弁室を円形表函調整工法にて補修・交換工事を実施します。

【 事業費の内訳 】

工法	昼夜区分	単価(千円)	諸経費	施工費(千円)	箇所数	合計(千円)
円形表函調整工法 (700⇒600レジン)	昼間施工				72	49,111
	夜間施工				287	217,123

【 実績の推移・今後見込み 】

今回の脱落事象と同様な構造の平受け方式マンホールは、市内に約69,000基あると想定されるため、補修交換や定期点検等の維持管理方法は今後方針決定していきます。

平受け方式マンホール基数

仕切弁	消火栓	その他	合計
32,000	36,000	1,000	69,000

【 事業スケジュール 】

令和7年度以降の事業スケジュールは、緊急輸送道路(1次及び2次)に設置されている平受け方式のマンホール蓋の内、今年度実施している緊急点検により発見された異常のある(鉄蓋と受枠に段差が生じている)弁室について、優先順位を決めて補修・交換していきます。

なお、今後の適切な維持管理に向けて、弁室の約15万基の設置情報及び点検結果等については、マッピングシステムにて管理する体制を構築していきます。(管路情報係と調整中)

平受け方式マンホール基数(受枠との段差が生じている弁室)

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	合計
計	359	未定	未定	未定	未定	未定

【 費用対効果分析 】

弁室を健全な状態に維持することで、近隣住民や通行者の生命・財産を脅かすリスクを未然に防ぎます。また、修繕作業を実施するために必要な時間と費用を削減します。

【 事業開始年度 】

令和6年度

【 根拠法令・データ等 】

水道法 第二十二の二 水道法施行規則 第十七条の二 第二項、第四項

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	武田 仁志

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (昇降設備等を含む大型弁室の補修事業)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	修繕費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	85,500				85,500
令和5年度	0				0
増△減	85,500	0	0	0	85,500

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算					85,500	60,500	未定	未定
決算・決算見込								

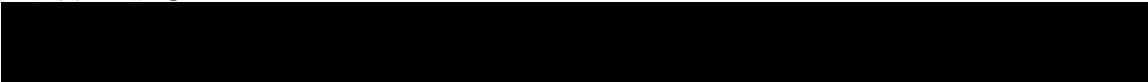
【事業の目的・必要性】

この事業は、大型弁室内の付属設備の延命化を目的として、塗装及び補修工事を実施するものです。大型弁室には築造後40年以上経過しているものがあり、大型弁室内の昇降設備等の付属設備及び管路が劣化しています。このため、塗装及び補修工事を計画的に実施することで、安全性の確保や事故の未然防止及び予算支出の平準化を図ります。

【令和6年度実施内容の概要】

令和6年度は、特に劣化が著しい南部幹線口径2000mmの長沼弁室の塗装及び補修工事を実施します。塗装箇所は、大型弁室内の螺旋階段部、渡り廊下部、バルブ振れ止め支柱部、縦配管部です。

【事業費の内訳】



【実績の推移・今後見込み】

施工予定： 調査中：

事業所名	弁室及び路線名	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
戸塚	長沼弁室						
戸塚	金井弁室						
戸塚	笠間幹線						
洋光台	磯子幹線						
洋光台	上永谷幹線						
戸塚	上永谷幹線						
中村	藤塚幹線						
中村	仏向弁室						
中村	戸部弁室						
青葉	三保高区線・三保線集合弁室						
菊名	菅田線						
菊名	港北線						
鶴見	下末吉集合弁室						
鶴見	東寺尾共同溝・末吉線(西谷)						
鶴見	末吉線(港北)						

【事業スケジュール】

同上

【費用対効果分析】

弁室内の管路を健全な状態に維持することで、腐食を起因とした漏水事故を未然に防止し、突発対応に係る費用を抑制します。また、劣化した塗装の塗替えにより、管路及び付属設備の延命化を図ることで、長期的なライフサイクルコストを縮減します。

【事業開始年度】

令和6年度

【根拠法令・データ等】

水道法 第二十二の二 水道法施行規則 第十七条の二 第二項、第四項

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	武田 仁志

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (共同溝内管路の老朽化対策事業)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	修繕費・委託費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	145,500				145,500
令和5年度	204,000				204,000
増△減	△ 58,500	0	0	0	△58,500

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	275,418	180,000	92,000	204,000	145,500			
決算・決算見込	252,024	184,110	95,306	204,000	-			

**【 事業の目的・必要性 】**

東寺尾・神奈川通・子安・横浜駅前・桜木町共同溝(鶴見、中村水道事務所管内)は整備後40年以上が経過しており、共同溝内の水道管及び管路を支えている受台が老朽化しています。管路等の延命化および布設替えを検討するうえで健全度の診断を行い、劣化が著しい箇所については、計画的に補修工事を行います。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

令和6年度は、桜木町共同溝の管体調査を実施します。また、子安通共同溝については、日々の点検の結果、管体塗装の劣化進行を確認したため、管体調査及び管体補修合わせて実施します。

**【 事業費の内訳 】**

水道事業費用 配水費 市内配水費 委託料 修繕費 単位：千円

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	予定額
		(鶴見)	調査費(委託料)	1,785	2,916	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東寺尾、神奈川通、子安	補修工事(修繕費)	24,531	31,030	66,169	145,236	118,323	164,831	165,488	169,488	107,780	95,306	200,000		
	計	26,316	33,946	66,169	145,236	118,323	164,831	165,488	169,488	107,780	95,306	200,000		
(中村)	調査費(委託料)	0	6,134	0	0	9,180	0	0	0	0	0	4,000		
	補修工事(修繕費)	0	0	0	8,910	0	95,861	90,967	105,930	76,330	0	0		
計		0	6,134	0	8,910	9,180	95,861	90,967	105,930	76,330	0	4,000		
合計	調査費(委託料)	1,785	9,050	0	0	9,180	0	0	0	0	0	4,000		
	補修工事(修繕費)	24,531	31,030	66,169	154,146	118,323	260,692	256,455	275,418	184,110	95,306	200,000		
計		26,316	40,080	66,169	154,146	127,503	260,692	256,455	275,418	184,110	95,306	204,000		

**【 実績の推移・今後見込み 】**

東寺尾共同溝	管体健全度調査 (H25年度)、補修工事完了(H25~H29年度)
神奈川通共同溝	管体補修工事完了(R5年度予定)
子安共同溝	管体健全度調査 (R6年度)、管体補修工事 (R6年度~R13年度)
横浜駅前共同溝	受台補修工事完了(H30年度)、管体健全度調査 (R5年度)、管体補修工事 (R7年度以降)
桜木町共同溝	受台補修工事完了(R3年度)、管体健全度調査 (R6年度)、管体補修工事 (R7年度以降)

**【 事業スケジュール 】**

単位：千円

事業所	共同溝名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	備考	
鶴見	東寺尾共同溝	管体修繕						→							全線補修完了
	神奈川通共同溝	全体調査							管体修繕						
	子安共同溝	全体調査													管体調査、修繕 R13完了予定
中村	横浜駅前共同溝	全体調査					一体工事 詳細設計	一体工事 受台修繕							管体調査
	桜木町共同溝				全体調査			受台修繕							管体調査

※子安共同溝(鶴見)はR13年度に補修完了予定。

※横浜駅前共同溝、桜木町共同溝については、管体調査の結果、R7年度以降管体補修予定

**【 費用対効果分析 】**

老朽化が著しい共同溝内管路について、更新工事ではなく延命化(補修工事)を前提とすることで、更新費用を抑制します。

**【 事業開始年度 】**

平成25年度

**【 根拠法令・データ等 】**

水道法 第二十二の二、水道法施行規則 第十七条の二第四項

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡 祥吾	中澤 祐貴	岡田 凜太郎

## 令和 6 年度 事業 計画 書

局課名	水道局	青葉水道事務所	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	---------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (赤外線サーモグラフィによる漏水探知方法と新たな管路診断手法の開発)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	市内配水費 調査研究費

(単位：千円)

区 分	予算 (A)	(A) の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和 6 年度	3,500				3,500
令和 5 年度	0				0
増△減	3,500	0	0	0	3,500

事業費	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
予算				0	3,500			
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**

二重管路の漏水調査手法として、これまで相関式や音聴調査により漏水箇所を推定してきたが、新たな漏水探知方法として、赤外線サーモグラフィによる漏水探知機器を民間企業と共同研究し開発する。また、この機器については、管路の健全度を診断・評価する「新たなアセットマネジメント手法」として活用できる。

**【 令和 6 年度実施内容の概要 】**

口径700mmの直線的な管路において、管路の内外面から赤外線サーモグラフィを使用して漏水場所の特定と減肉調査が可能な機器を開発する。

**【 事業費の内訳 】**

共同研究開発費	6 年度	7 年度 (予定)
事業費 (千円)	3,500	未定

**【 実績の推移・今後見込み 】**

R 6 年度からの事業のため記載無し

**【 事業スケジュール 】**

- ・ R 6 年 1 月：共同研究開発する民間企業公募
- ・ R 6 年 3 月：共同研究開発する民間企業決定
- ・ R 6 年 4 月：研究開発開始
- ・ R 6 年 9 月：R 7 年度共同研究開発の手続き
- ・ R 7 年 3 月：R 6 年度の共同研究開発完了

**【 費用対効果分析 】**

二重管路の漏水箇所を特定することができる。また、管路の更新について、布設年度や状態保全監視等の調査結果ではなく、管路の腐食状況を数値化(管厚)し更新及び補修を行うことで、技術的な知見に基づく機能診断や、現有資産の状態・健全度を適切に診断・評価することが可能となり、施設の適切な維持・補修を効率的に行うことができるほか、施設の長寿命化により更新年月を遅らせることでコスト縮減が可能となる。

**【 事業開始年度 】**

R6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

水道法 (第22条の 2、第22条の 3、第22条の 4)、水道法施行規則 (第17条の 2)

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	維持係
	佐藤 浩一	山室 洋司	二宮 雅人

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (水管橋長寿命化促進事業)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	修繕費

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	128,300				128,300
令和5年度	146,900				146,900
増△減	△ 18,600	0	0	0	△18,600

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	180,050	183,500	144,300	146,900	128,300	149,300	91,200	195,800
決算・決算見込	177,462	111,181	114,317	140,000				

**【 事業の目的・必要性 】**  
 この事業は水管橋の長寿命化を目的として、計画的に塗装及び補修工事を実施するものです。  
 平成24年及び25年の調査において、外面からの腐食が進行している水管橋が確認され、平成25年度には大黒大橋に添架された配水管の漏水が発生しました。このため、漏水や災害などの事故による第三者への影響を未然に防止するため、優先順位の高い水管橋から計画的に補修工事等を実施し、適正な維持管理を行います。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 「水管橋等点検マニュアル」に基づき、毎年度実施している水管橋の点検結果から、塗装等の劣化が確認された水管橋について、塗替え及び補修を実施します。

**【 事業費の内訳 】**  
 水道事業会計 配水費 修繕費 128,300千円

事業所	菊名	鶴見	三ツ境	青葉	中村	洋光台	戸塚
箇所数	3橋	1橋	3橋	2橋	1橋	6橋	2橋
予算費用(千円)							

**【 実績の推移・今後見込み 】**

年度	実績					予定				
	H27~29	H30~R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
実施数	47橋	22橋	11橋	15橋	18橋	16橋	18橋	16橋	16橋	14橋
事業費										
合計	47橋	22橋	60橋			64橋				

**【 事業スケジュール 】**  
 ・H27～H29年度：事故時に第三者への影響が大きいなどの理由で緊急的な対応が必要な水管橋  
 ・H30～：年間点検等により劣化が進んでいる水管橋

**【 費用対効果分析 】**  
 ・漏水事故の未然防止により、突発対応に係る費用を抑制しています。  
 ・布設替えと比較して安価な塗替えにより長寿命化を図ることで、更新事業費を抑制しています。  
 ・従来の塗装(概ね10年)と比較して耐用年数の長い重防食(20年以上)の施工を基本とすることで、次の塗替えまでの期間を延長することが可能です。

**【 事業開始年度 】**  
 平成27年度

**【 根拠法令・データ等 】**  
 水道法 第二十二の二、水道法施行規則 第十七条の二第四項、河川法第十五条の二

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	給水維持係
	浅岡祥吾	中澤祐貴	鈴木雅博



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	計画課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	施設の維持管理の強化とアセットマネジメントの推進 (配水池の保全・更新)				
予算科目	水道事業会計	目	総係費・浄水費	節	委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	27,000				27,000
令和5年度	30,000				30,000
増△減	0	0	0	0	△3,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	41,000	35,000	30,000	30,000	27,000	-	-	-
決算・決算見込	30,204	28,440	26,708	23,100	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

今後、多額の更新費用が見込まれる配水池については、これまで配水池の長寿命化の研究を行った他、配水池劣化状況調査を実施し健全度を把握する取組を進めており、今後は効率的な施設更新や対策のための計画を策定する予定です。

鉄筋コンクリート製配水池の保全計画を策定する際の根拠となる、劣化の診断方法や劣化状況の判断基準、維持管理手法等の指針を定めることを目的とし、配水池の定期清掃に合わせて劣化状況調査を行い、データ蓄積や劣化状況の分析等を行います。

さらに、令和元年度から実施してきた配水池劣化状況調査の結果をもとに、劣化予測や配水池ごとの保全計画を策定します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

配水池劣化状況調査について、令和元年度から令和5年度末までに全39池中35池の調査が完了する見込みです。令和6年度以降も引き続き残りの配水池について調査を進めます。

また、令和元年度から令和5年度までの配水池の劣化状況の調査結果をもとに、劣化予測や補修時期・補修にかかる概算費用の算出など、保全計画策定に向けた検討について業務委託します。

**【 事業費の内訳 】** R1～R4は決算、R5は決算見込

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6(予算)	R7
配水池劣化状況調査業務委託							
配水池の保全計画策定							

**【 実績の推移・今後見込み 】** R1～R4は実績

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5(予定)	R6(予定)	R7
配水池劣化状況調査業務委託	6池	9池	6池	6池	8池	※1池	(未定)
配水池の保全計画策定	-	-	-	-	-	業務委託	局内検討

※R6年度は、能見台高区配水槽と港北配水池2号池の2池を予定しておりますが、港北配水池2号池については、隣接している池は両方あわせて1池とする考え方のため、R7年度以降の港北配水池1号池が完了した時点で1池と数えます。

**【 事業スケジュール 】**

令和6年度 配水池劣化予測業務委託  
令和7年度～ 配水池保全計画策定

**【 費用対効果分析 】**

劣化状況調査にて得られたデータを用いて配水池の余寿命予測を行います。予測結果を基に点検や修繕による長寿命化を図ることでライフサイクルコストの低減が期待できるほか、事業の優先順位を設定することで、耐用年数通りに配水池を更新するのに比べて、全体の事業費の縮減や平準化につなげることが期待できます。

**【 事業開始年度 】**

劣化状況調査：令和元年度  
保全計画策定業務委託：令和6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

—

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	施設計画係
	古川 明彦	山田 一人	松原 健

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局 浄水課・水源林管理所	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	----------------	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（ドローンを活用した道志水源林の整備事業）＜再掲＞				
予算科目	水道事業会計	目	原水費・固定資産購入費	節	委託料・機械器具備品購入費など

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,360				2,360
令和5年度					0
増△減	2,360	0	0	0	2,360

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	2,360			
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**  
 道志水源林では、令和元年度からカシノナガキクイムシが媒介するナラ菌を原因としたナラ枯れ被害が発生していますが、被害確認は委託で目視により行っています。被害木の調査可能期間はナラ枯れの始まる9月から10月上旬ごろと、短期間で確認する必要があります。水源林は、急勾配などところも多く、目視により山全体の様子を把握するのが困難です。そのため、ドローンを活用することで被害場所の正確な位置を特定し、ナラ枯れの効率的な調査を実施します。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 ドローンを屋外で自由に操作するには、無人航空機操縦技能3日と無人航空機安全運航管理者1日のセット講習として計4日間の講習を受講する必要があります。令和6年度は、1名を受講させます。

**【 事業費の内訳 】**  
 ドローン購入費： [ ] バッテリー及び充電器を含む。）  
 基礎研修受講費： [ ]  
 アフターフォロー研修： [ ] 現地での指導2回、随時のサポートを含む。）  
 ドローン保険料（賠償責任保険、機体保険）： [ ]  
 microSDカード： 32GB 2枚、64GB1枚 [ ]  
 PC一式： [ ]  
 SIMカード（通信費 データ定額50GB）年間 [ ]

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 ドローンでのナラ枯れ確認の効果を実証することで、調査委託費用の一部を削減し、被害状況を素早く、的確に把握できるようになります。そのほか、針広混交林化を進めるにあたり、その進捗状況を容易に把握することが可能になります。また、風水害等の発生時、現場確認の際に事前にドローンを飛ばすことで、森林や道路の被害状況の概要を把握することができます。その後現地に現状復旧に入る際も、危険地域等を先に把握することにより、効率的な作業が可能になります。画像の解析には、分析用の専用ソフトが必要ですが、初年度は、無償での使用が可能のため、ソフトの有用性についても検証していきます。

**【 事業スケジュール 】**  
 ドローン講習会の受講（7月）  
 アフター研修フォロー（8月）  
 ナラ枯れ確認（9月）  
 ドローンによる効果の検証（12月）

**【 費用対効果分析 】**  
 ナラ枯れの調査は令和4年度から委託で行っておりますが、双眼鏡を使用して、目視で行う方法でした。ドローンを活用することでその期間を短縮し、委託費を縮減できます。また、被害木の正確な場所を特定することで、処理に要する時間を正確に計算でき、それによって処理に係る委託料を高い精度で見積ることが可能となります。区域調査についても、調査箇所が過去のナラ枯れ発生場所に限られていたのが、ドローンを使用することでより広範囲の調査が可能になります。

**【 事業開始年度 】**  
 令和6年度開始

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	羽布津 慎一	吉井 麗子	齋藤 円

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	浄水課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（ドローン等を活用した配水ポンプ場の遠隔巡視）				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	委託料

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	4,800				4,800
令和5年度					0
増△減	4,800	0	0	0	4,800

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	4,800			
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**

1 目的  
 水道局では、市内に点在している配水ポンプ場について、定期的な維持管理として、職員による巡視・点検を行っています。この巡視・点検について、ICTを活用した遠隔巡視を試行的に導入し、業務効率化や設備不良の早期発見等の効果を検証します。  
 具体的には、ドローンによる自動巡視で現行の巡視を代替することや、現行の点検の中で直営により行っているポンプ軸受け部の劣化状態把握を、IoTセンサを活用することで常時監視します。

2 必要性  
 ポンプ場の巡視・点検は、安定給水を行う上で重要な業務ですが、今後多くのベテラン職員の定年退職が見込まれることに加え、人口減少等による将来的な担い手不足等により、従来のような「経験に基づく高い技術力や一定の職員数を要する巡視・点検方法」では、業務継続が困難になっていくことが想定されています。また、水需要減に伴う料金収入の減収が見込まれる中で、設備の老朽化に伴う更新需要の増や、原材料費の高騰、機器単価の増など、社会状況の変化により、設備の更新・修繕・維持管理に係る費用が増大しており、今後さらに厳しい財政状況になっていくことが想定されます。  
 そのため、ICTを活用した巡視・点検を導入することにより、持続的な安定給水と効率的な設備維持管理手法の確立を目指していく必要があります。

**【 令和6年度 事業概要（試行導入） 】**  
 ドローンについては、配水ポンプ場1機場にドローンを配備し、ポンプ室内で網羅的に飛行可能か検証するため、配管同士の狭い部分の画像・映像を取得できるか確認していきます。また、遠隔巡視にあたり、設定した飛行ルートを正確に飛行できるか、すべての目的物の確認を行い発着地点に戻ってくるか、飛行中に問題が発生しないか、遠隔操作により目的物に接近した撮影が可能かなどを確認していきます。  
 センサについては、同機場の配水ポンプ及び電動機に振動センサを設置し、得られた振動データと、職員が音調棒により音で異常判定する感覚との相関性を解析することで、これまでベテラン職員のノウハウに依存していた判定基準を可視化できるか確認していきます。  
 これらICTによる遠隔巡視が人間による巡視・点検の代替となり得るか、その有効性と発展性を検証します。

**【 事業費の内訳 】**  
 ①ドローン、通信費、監視ソフト、パソコン等  
 ②センサ、通信費、監視ソフト、パソコン等

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 試行検証で導入が可能となった場合は、市内の配水ポンプ場に順次導入していくことを想定しています。

**【 事業スケジュール 】**  
 令和6年5月～令和7年2月、配水ポンプ場・・・1か所

**【 費用対効果分析 】**  
 ドローンとセンサを組み合わせた巡視・点検は、職員により実施している機械設備巡視・点検の代替となります。機械設備巡視・点検は配水池およびポンプ場で月1回、1日3～4人程度で実施しています。水道局で維持管理しているポンプ場33か所に導入することができた場合は、年間の機械設備巡視・点検を自動化できると考えています。この自動化により、毎日状況確認ができることや、緊急時にも迅速な状況確認ができることで、巡視・点検の強化が可能となります。  
 また、現行のポンプ・モータの点検は、音調棒を使って振動音を聞き分けて機器の劣化診断を行う熟練作業ですが、センサを導入し、そのデータから機器の診断できるようになれば、グリスアップを最適なタイミングで実施でき、事故発生前に誰でも正確な判断及び対策が可能となります。その結果、市民給水を安定して継続できることにも寄与します。

**【 事業開始年度 】**  
 令和6年5月

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	浄水係
	羽布津 慎一	松田 浩明	加藤 克佳

## 令和 6 年 度 事 業 計 画 書

局課名	水道局	配水課 (漏水管理係)	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------------	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進情 (クラウド型IoTによる遠隔での漏水監視)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	賃借料

(単位：千円)

区 分	予算 (A)	(A) の財源内訳			
		国等	市 (繰入金等)	負担金等	自己資金
令和 6 年度	2,500				2,500
令和 5 年度	0				0
増△減	2,500	0	0	0	2,500

事業費	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
予算					2,500	5,280	5,280	5,280
決算・決算見込					-	-	-	-

<p>【 事業の目的・必要性 】</p> <p>これまでも計画的に漏水調査を実施しているが、漏水が発生すると甚大な被害を及ぼす可能性がある管路について、早期に漏水の発生を探知し、二次災害の発生を未然に防ぐ取組みが必要となる。このことから「クラウド型 I O T による遠隔漏水監視」を試行導入し、漏水の定期監視、早期発見に取り組む。</p> <p>【 令和 6 年度実施内容の概要 】</p> <p>効果的な設置個所の選定を行い、遠隔漏水監視システムを設置し、検証を行う。</p> <p>【 事業費の内訳 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラウド型 I O T 遠隔監視システム (レンタル契約)</li> <li>■</li> </ul> <p>【 実績の推移・今後見込み 】</p> <p>遠隔監視による効果と費用について検証し、監視エリアの拡大を検討する。</p> <p>【 事業スケジュール 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 6 年度：対象路線の選定・試行導入</li> <li>・令和 7 年度：試行期間</li> <li>・令和 8 年度：試行期間</li> <li>・令和 9 年度：試行の検証・導入検討</li> </ul> <p>【 費用対効果分析 】</p> <p>漏水の定期監視、早期発見が可能となる。</p> <p>【 事業開始年度 】</p> <p>令和 6 年度</p> <p>【 根拠法令・データ等 】</p>
--

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	漏水管理係
	足利 洋明	野地 武彦	森崎 茂

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	青葉水道事務所	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	---------	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進 (赤外線サーモグラフィによる漏水探知方法と新たな管路診断手法の開発) (再掲)				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	市内配水費 調査研究費

(単位:千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	3,500				3,500
令和5年度	0				0
増△減	3,500	0	0	0	3,500

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	3,500			
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	~	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**

二重管路の漏水調査手法として、これまで相関式や音聴調査により漏水箇所を推定してきたが、新たな漏水探知方法として、赤外線サーモグラフィによる漏水探知機器を民間企業と共同研究し開発する。また、この機器については、管路の健全度を診断・評価する「新たなアセットマネジメント手法」として活用できる。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

口径700mmの直線的な管路において、管路の内外面から赤外線サーモグラフィを使用して漏水場所の特定と減肉調査が可能な機器を開発する。

**【 事業費の内訳 】**

共同研究開発費	6年度	7年度(予定)
事業費(千円)	3,500	未定

**【 実績の推移・今後見込み 】**

R6年度からの事業のため記載無し

**【 事業スケジュール 】**

- ・R6年1月：共同研究開発する民間企業公募
- ・R6年3月：共同研究開発する民間企業決定
- ・R6年4月：研究開発開始
- ・R6年9月：R7年度共同研究開発の手続き
- ・R7年3月：R6年度の共同研究開発完了

**【 費用対効果分析 】**

二重管路の漏水箇所を特定することができる。また、管路の更新について、布設年度や状態保全監視等の調査結果ではなく、管路の腐食状況を数値化(管厚)し更新及び補修を行うことで、技術的な知見に基づく機能診断や、現有資産の状態・健全度を適切に診断・評価することが可能となり、施設の適切な維持・補修を効率的に行うことができるほか、施設の長寿命化により更新年月を遅らせることでコスト縮減が可能となる。

**【 事業開始年度 】**

R6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

水道法(第22条の2、第22条の3、第22条の4)、水道法施行規則(第17条の2)

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	維持係
	佐藤 浩一	山室 洋司	二宮 雅人

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	計画課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（水管橋の点検及び診断と保全計画）				
予算科目	水道事業会計	目		節	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,500	0	0	0	2,500
令和5年度	1,000	0	0	0	1,000
増△減	1,500	0	0	0	1,500

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				1,000	2,500			
決算・決算見込				2,500	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

令和3年度に発生した和歌山県的水管橋落橋事故を契機に維持管理の強化が求められており、本市の水管橋の維持管理については、目視による点検と10年に1度、塗装の塗り替えを行っています。維持管理をより効果的なものとするため、ICTを用いた点検及び診断を実施し水管橋の劣化状況調査を行います。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

- ・令和5年度の調査に引き続き、令和6年度も試行的に点検及び診断を実施します。
- ・タイヤに磁石を内蔵した点検ロボットを管外面に自走させ、水管橋の管厚と塗膜厚を測定します。
- ・本試行では、点検の操作性や水管橋への適応性なども含めて検証します。また、診断によって得られたデータを基にアセットマネジメントの考えを用い、塗装周期や更新を適切に行うことが出来るなど、保全計画に反映できるか検討します。

**【 事業費の内訳 】**

水管橋の劣化状況調査



**【 実績の推移・今後見込み 】**

**【 事業スケジュール 】**

令和6年度 試行的に実施し、評価検討

**【 費用対効果分析 】**

アセットマネジメントの考えを用い、管路の更新年数や塗装更新時期を見直すことにより、ライフサイクルコストの縮減効果が期待できます。

例として、水管橋の維持管理に必要な塗装工事は1件あたり約1,000万円（平成27～令和3年度実績）であるため、例えば10年に一度の塗装を11年に一度とすることができた場合、約100万円の削減効果が生じます。

**【 事業開始年度 】**

令和5年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	施設計画係
	古川 明彦	山田 一人	大淵 空

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	計画課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	37
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（AR技術を活用した遠隔作業支援）				
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	3,018				3,018
令和5年度	19,710	5,536			14,174
増△減	△16,692	△5,536	0	0	△11,156

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	-	-	1,700	19,710	3,018	3,018	3,018	3,018
決算・決算見込	1,983	-	1,373	22,081	-	-	-	-

【事業の目的・必要性】  
 市民への安定給水を継続していくためには、職員から職員への技術継承により、水道局の技術力を維持していくことが必要です。今後は、水道事業の担い手が減少することも予想されますが、効率的な技術継承を行い、水道局の技術力を維持するため、「AR技術による遠隔作業支援」（以下「本技術」という。）を2浄水場、7水道事務所から令和5年度から導入に向けて取り組んでいます。  
 本技術は、事務所のベテラン職員が複数の現場の若手職員に対してリモートで音声や手書きによる具体的な作業支援を行うことで、人材育成を図ります。さらに副次的な効果として、情報共有の円滑化、作業確実性の向上も挙げられます。

【令和6年度実施内容の概要】  
 AR技術を活用した遠隔作業支援の実施

【事業費の内訳】 （単位：千円）

	R 5 (見込)	R 6	R 7	R 8	R 9
機器購入					
通信契約費用					
PCリース					
端末リモートワイプ費用					
合計	22,081	3,018	3,018	3,018	3,018

【実績の推移・今後見込み】  
 令和2年度 「AR機能付き遠隔作業支援の導入可能性の検討」について民間事業者と共同研究を実施  
 令和3年度 令和4年度試行導入の検討（対象業務、機器類の貸出期間、機器類の構成等）  
 令和4年度 試行導入（本格導入に向けた運用方法の検討、機器必要数やネットワーク環境の確認など）  
 令和5年度～ 水道施設の管理を行う2浄水場・7水道事務所に導入

【事業スケジュール】  
 令和6年度以降も継続

【費用対効果分析】  
 遠隔から作業を支援することで効率的な技術継承を図るほか、情報共有の円滑化、作業確実性の向上が見込まれます。

【事業開始年度】  
 令和2年度  
 【根拠法令・データ等】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	古川 明彦	上田 嘉彦	東 秋帆

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	サービス推進課料金システム係	新規拡充事業	一	事業評価書番号	20
-----	-----	----------------	--------	---	---------	----

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進 (スマートメーター(自動検針システム)第1次モデル事業の業務委託の推進)〈再掲〉				
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	調査研究費

(単位:千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,300				2,300
令和5年度	2,000				2,000
増△減	300	0	0	0	300

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	4,000	4,000	2,000	2,000	2,300	2,900	2,900	2,700
決算・決算見込	2,231	1,970	2,037	2,349	-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	令和5年	設定期間	R5 ~ R9	限度額	15,300
--------	------	------	------	---------	-----	--------

**【事業の目的・必要性】**

「スマートメーター」とは、無線通信等により遠隔で指針値等のデータを取得できるメーターです。  
 本事業は、ICT技術の活用による事業効率化が求められる昨今、水道事業の効率化やお客さまサービスの向上、将来的な検針業務の持続による安定した経営基盤の保持に、スマートメーターをどのように活用できるのかを見極め、本格導入への足掛かりとするため、横浜市緑区十日市場町周辺地域を「モデル地区」に設定し、対象物件にスマートメーターを設置し、自動検針を行い、取得したデータによる料金調定を令和2年11月から開始しました。(第1次モデル事業)  
 なお、令和5年8月末に委託履行期限が満了になることから、令和4年度の「スマートメーター導入推進P J」で検討した結果、委託事業を更新し、事業を継続することとしました。

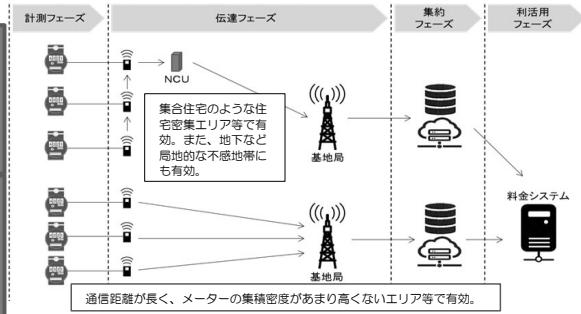
**【令和6年度実施内容の概要】**

令和5年度以降についても、通信機器の保守及び検針データの送信を継続して委託業務で行います。

**【事業費の内訳】**

方式1	方式2
<b>【通信方式】</b>	
スター方式	マルチホップ方式
メーター設置数	
329箇所	132箇所
運用保守費用/年(令和4年度決算)	
緊急調査・緊急保守・通信費・データSC利用料・データ配信費	
1,063千円	975千円
<b>令和6年度予算</b>	
<b>1,639千円</b>	<b>1,163千円</b>

マルチホップ方式  
スター方式



**【実績の推移・今後見込み】**

令和元年度 実用技術方式選定業務委託(コンサルティング)を実施、委託仕様書を作成。  
 令和2年度 構築および運用保守事業者決定、スマートメーターを設置、データ通信試験を開始。  
 データ通信試験、検針値整合性比較検証、自動検針業務フロー策定  
 ・本格稼働(自動検針および取得データを使用して料金調定)を開始。(R2.10月~)  
 ・「給水サービス事務オンラインシステム」開発と並行してデータ連携等のテストおよび検証の実施(～R3.3月)  
 令和3年度 給水サービス事務オンラインシステムと自動でデータ連携を行い、料金調定を開始。  
 令和4年度 スマートメーターによる自動検針および料金調定を継続。  
 令和5年度 委託契約期間満了(～R5.8月)に伴い、委託契約を更新。(R5.9月~)  
 令和6年度～ スマートメーターによる自動検針及び料金調定を継続し、検針業務の効率化に伴う事務処理等の把握や、機器の電池寿命や故障率などの技術的要素について、運用実績に基づく知見の蓄積を見込んでいます。

**【事業スケジュール】**

契約期間：令和5年9月1日から令和9年8月31日まで(方式1：スター方式)  
 令和5年9月1日から令和8年10月31日まで(方式2：マルチホップ方式)  
 ※契約期間の差異は、メーター設置時期の相違により検定満期の満了年月が違うためです。

**【費用対効果分析】**

高価な電子式水道メーターや通信機器を無駄なく利用できます。  
 また、過去4年間の運用実績により、令和5年度契約から運用保守費用の低減化を実現しました。今後は、通信費等の低減化が進めば更なるコスト削減が期待できます。

**【事業開始年度】**

令和5年度

**【根拠法令・データ等】**

自治法214条「歳出予算の金額、継続費の総額又は繰越明許費の金額の範囲内におけるものを除くほか、普通地方公共団体が債務を負担する行為をするには、予算で債務負担行為として定めておかなければならない。」

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	料金システム係
	中村 勝利	上倉 悟	柿沼 大



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	給水維持課	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進 (共同検針に使用可能な水道スマートメーターの検証(共同研究)) <再掲>				
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	調査研究費

(単位:千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	1,000				1,000
令和5年度	0				0
増△減	1,000	0	0	0	1,000

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	1,000			
決算・決算見込					1,000	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

当局では、第2次モデル事業として水道スマートメーターを使用した共同検針の実証実験を計画しているが、共同検針で使用可能な通信機は、現在制作中であり、水道メーターの設置環境における通信検証ができていない状況である。第2次モデル事業を円滑に進めるためには、新たに開発される通信機器等の事前検証が必要であることから本研究を行うものである。

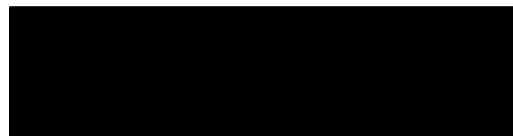
**【 令和6年度実施内容の概要 】**

一般送配電事業者及び水道メーターメーカーから検証に必要な機器類の提供を受け、当局が提供する局内フィールドに水道スマートメーターを設置し、電力スマートメーターとの通信検証を行う。  
通信検証では通信機の設置環境(埋没、水没等)を変えて検証するとともに電力スマートメーターとの通信距離についても検証する。

**【 事業費の内訳 】**

共同検針用通信端末の提供及び開発・改良  
電力スマートメーターの提供  
(一般送配電事業者(関係事業者含む))

電子式水道メーターの提供及び通信機の接続・設定  
(水道メーターメーカー)



合計 100万円

**【 実績の推移・今後見込み 】**

本研究は第2次モデル事業を実施する前に行う事前検証が目的であるため、令和6年度で完了する。

**【 事業スケジュール 】**

4月～7月 相手企業募集及び契約等手続き  
8月～1月 検証期間  
2月 検証結果まとめ・報告

**【 費用対効果分析 】**

本研究により、共同検針用水道スマートメーターの使用上の課題を洗い出し、対処することで第2次モデル事業のスムーズな実施に繋げる。

**【 事業開始年度 】**

令和6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	水道メーター係
	浅岡 祥吾	竹村 太郎	高橋 宏之

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	サービス推進課料金管理係	新規拡充事業	●	事業評価書番号
-----	-----	--------------	--------	---	---------

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進 (給水サービス事務オンラインシステムにおけるRPA導入の検証作業委託)				
予算科目	水道事業会計	目	業務費	節	委託料

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	6,750	0	0	0	6,750
令和5年度	0	0	0	0	0
増△減	6,750	0	0	0	6,750

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算					6,750	5,200	5,200	5,200
決算・決算見込					-	-	-	-

債務負担設定	設定年度	設定期間	～	限度額
--------	------	------	---	-----

**【 事業の目的・必要性 】**  
 給水サービス事務オンラインシステム（以下、システム）では、お客さまからの各種申請について、職員が申請書を一枚ずつ審査しながらシステム入力作業を行っています。現在、横浜DX戦略の一環として各種申請手続きのオンライン化を進めており、オンライン申請によってデータ化された申請内容を効率的に処理するためには、システム上でRPAを稼働させる必要があります。しかし、システムはシンクライアント環境のため、RPAソフトが適切に稼働するか検証作業が必要になります。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 シンクライアント環境にRPAを導入した際のシステムの挙動について検証作業を行います。検証作業が完了次第、RPAのシナリオを作成するとともに、関係局と調整のうえ、一部の水道事務所で試行導入を実施します。

**【 事業費の内訳 】**  
 ライセンス費用                      千円  
 挙動確認作業                      千円  
 計 6,750 千円  
 ※挙動確認作業：稼働可否、入力制御、入力した情報の後続処理への影響検証作業

**【 実績の推移・今後見込み 】**  
 令和7年度以降は、毎年のライセンス費用を計上しています。（ライセンス数：12 ライセンスの追加は10単位のため12ライセンス）

ベースライセンス（2）                      千円  
 オプションライセンス（10）                      千円  
 計 5,200 千円

**【 事業スケジュール 】**  
 令和6年度：システム内でRPAを稼働させた場合の検証作業と試行を行います。  
 令和7年度：試行結果を基に、各所管課でRPAを使い始めます。

**【 費用対効果分析 】**  
 RPAを導入することで職員が手入力していた作業が減るため、事務処理ミスが減少します。また、令和6年度中に開始予定の電子申請システムによる申請と併用することで、データ化された申請情報を得ることができ、RPAで行える作業が増える見込みです。  
 （電子申請システムと併用することで、ペーパーレス及び区局間の確認作業の効率化が図れます。）

**【 事業開始年度 】**  
 令和6年度

**【 根拠法令・データ等 】**

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	料金管理係
	中村 勝利	加藤 健太郎	山下 勇樹

【様式6】

令和6年度事業計画書

局課名	水道局	情報システム課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	---------	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進 (RPA専有ライセンス)					
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節	負担金	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	600				600
令和5年度	0				0
増△減	600	0	0	0	600

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	600			
決算・決算見込					—	—	—	—

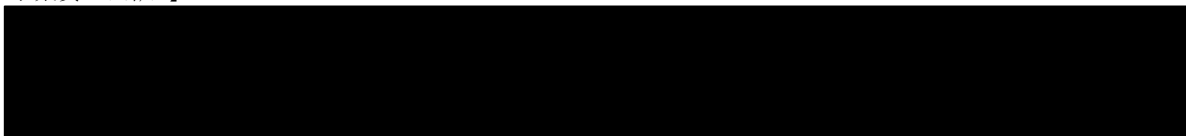
【 事業の目的・必要性 】

ロボットを活用し、業務の自動化・効率化を推進するため、デジタル統括本部では、庁内で無償かつ継続して利用できるRPA環境を構築しました。この取組等により、RPAは全庁的に浸透しており、現在、水道局でも複数の課が利用しています。現在利用している無償で利用できるライセンスは庁内で共有利用しており、利用時間等に制限があるため、令和6年度より、希望する所属へ専有ライセンス(有償)が配布されることとなりました。情報システム課にて水道局での必要数を調達します。

【 令和6年度実施内容の概要 】

ロボットを作成し、ロボットに作業を行わせることで業務の自動化・効率化に取り組むことを希望する事業で、頻繁にRPAが必要な業務について、令和6年度より専有ライセンスにて業務を実施します。なお、専有ライセンスは水道局内で共有して利用できるため、利用予定所属以外でも利用可能です。また、無償ライセンスも申請により継続して利用可能なため、専有ライセンスと合わせて活用していきます。  
 利用予定所属：サービス推進課、小雀浄水場、南部方面配水管理課、情報システム課  
 利用業務：個人福祉減免制度の電子申請データ処理、水質試験結果書の入力業務、各種申請書資料作成業務、IaaS通信帯域状況調査 等

【 事業費の内訳 】



【 実績の推移・今後見込み 】

【 事業スケジュール 】

令和6年4月 デジタル統括本部より専有ライセンス受領、局内にて運用

【 費用対効果分析 】

RPAにて自動処理することにより、作業時間の短縮やヒューマンエラー防止に寄与します。

【 事業開始年度 】

令和4年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	システム管理係
	尾島 靖生	藤田 和宏	徳成 麻衣

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	31
-----	-----	-----	--------	---	---------	----

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（次期財務会計システム開発関連）					
予算科目	水道事業会計	目	諸設備新設費、総係費	節	委託料	

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	62,529				62,529
令和5年度	284,907				284,907
増△減	0	0	0	0	△ 222,378

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算		208,816	393,834	284,907	62,529			
決算・決算見込		231,856	393,297	284,907	—	—	—	—

**【 事業の目的・必要性 】**  
 稼働から18年が経過した財務会計システムを再構築するため、令和3年度から「次期財務会計システム開発業務委託」を開始し、令和6年度は開発業務の最終年度です。  
 次期財務会計システムでは、伝票のペーパーレス化及び電子決裁の拡充、他システムとのデータ連携強化等により経理事務の効率化及び省力化を図ります。  
 令和6年度から、新OSが搭載された職員端末が調達されることに伴い、次期財務会計システムにおいて、正常に作動するかの動作評価及び適用作業を行います。

**【 令和6年度実施内容の概要 】**  
 令和3年度から開発業務委託をした次期財務会計システムは、令和6年4月に全面稼働します。  
 しかし5年度決算は旧財務会計システムで行うため、旧財務会計システムのデータを4月に本稼働する財務会計システムに移行作業を行います。  
 また、これから開発する会計室所管の電子請求システムとの連携についても令和6年度中に実施します。  
 データ移行及び電子請求システム連携があることから開発業務を管理する「プロジェクトマネジメント業務委託」についても令和6年度は引き続き実施します。  
 新OSを搭載した職員端末が、問題なく次期財務会計システムを利用できるかの動作を評価し、財務会計システムの研修環境及び本番環境において、新OSに対応したオーバーライトの適用作業を行います。  
 また、これに伴う受入テスト及び端末設定等の支援も含まれます。

**【 事業費の内訳 】**

**【 実績の推移・今後見込み 】**

**【 事業スケジュール 】**  
 <次期財務会計システムの全体構築スケジュール>  
 令和3年度 システム要件定義  
 令和4年度 システム設計・開発・連携テスト  
 令和5年度 開発、ソフトウェア構成の調達及び設定、令和6年度予算編成について先行稼働

**【 費用対効果分析 】**  
 次期財務会計システムでは伝票のペーパーレス化と電子決裁の拡充により紙回付の工数の減や、他システムとのデータ連携強化等による二重入力の解消での工数の減などにより、76,072時間/年と約3億6千万円/年の削減を見込んでいます。  
 ※@4,769/時(令和元年度決算人件費)×76,072時間

**【 事業開始年度 】**  
 開発業務委託及びPJM委託：令和3年度、動作評価業務委託：令和6年度

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	会計係
	大矢 雅幸	谷本 淳	二関 ルミ子

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	計画課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業におけるICT活用・DX推進（音声議事録作成支援サービスの導入）				
予算科目	水道事業会計	目	総経費	節	賃借料

（単位：千円）

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	1,299				1,299
令和5年度	1,499				1,499
増△減	△200	0	0	0	△200

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				1,499	1,299	1,299	1,299	1,299
決算・決算見込				1,523	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

業務遂行上重要な会議において、必要に応じて議事録を作成していますが、ICレコーダー等で録音した音声を会議終了後に再生しながら作成しており、多くの時間が必要になっていました。  
この記録作成業務を音声認識システムを活用しICT化することにより、職員の負担軽減による効率化及び人件費（超過勤務時間）の削減を図ります。

【 令和6年度実施内容の概要 】

令和5年度に購入した音声認識システムを継続して購入し、様々な会議等で議事録の作成に使用します。

【 事業費の内訳 】

（単位：千円）

	5年度(見込)	6年度	7年度	8年度	9年度
機器購入					
システム関係					
合計	1,523	1,299	1,299	1,299	1,299

【 実績の推移・今後見込み 】

令和5年度 集音機器購入、システム導入  
令和6年度 継続してシステムを利用

【 事業スケジュール 】

令和6年度 継続してシステムを利用

【 費用対効果分析 】

議事録の作成には、多くの時間がかかります。本システム導入でのICT化により、業務の効率化が図れ、削減される人件費（超過勤務時間）で事業費の回収が見込まれます。

【 事業開始年度 】

令和5年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	古川 明彦	上田 嘉彦	東 秋帆

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 原水費				
予算科目	水道事業会計	目	原水費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	3,449,833				3,449,833
令和5年度	4,399,012				4,399,012
増△減	△949,179	0	0	0	△949,179

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	3,350,495	3,184,569	3,500,620	4,399,012	3,449,833			
決算・決算見込	2,819,801	2,897,839	3,328,392	—	—	—	—	—

## 【事業の目的・必要性】

安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

## 【令和6年度実施内容の概要】

- 水源から浄水場まで水を運ぶ取組  
水源林の整備をはじめ取水施設や導水施設の維持管理等、及び水源地域等の事務所の運営等。  
(水源から浄水場まで水を運ぶ経費のうち、収益的支出(原水費)で行う取組に該当するもの)

## 【事業費の内訳】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	240,951	
手当	178,088	
法定福利費	87,151	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	547	
報償費	2,058	
被服費	413	
備消耗品費	1,672	
燃料費	4,442	
光熱水費	3,719	
印刷製本費	820	
通信費	1,540	
委託料	314,430	水源林整備、鶴ヶ峰活性炭施設投入等作業、各種装置施設保守点検ほか
手数料	613	
賃借料	18,936	
修繕費	215,182	小雀浄水場揚水ポンプ修繕、車両修繕ほか
材料費	2,342	
動力費	1,136,410	取水ポンプ、揚水ポンプに係る電気代ほか
薬品費	56,768	
補償費	1	
補助交付金	134,647	道志村生活排水処理事業ほか
交付金	50,627	
森林保険料	5	
火災損害保険	36	
自動車保険料	261	
負担金	989,356	相模湖・津久井湖の環境保全対策ほか
自動車重量税	208	
助成金	8,600	
雑費	10	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 浄水費				
予算科目	水道事業会計	目	浄水費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	21,795,431				21,795,431
令和5年度	22,507,725				22,507,725
増△減	△712,294	0	0	0	△712,294

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	21,582,464	21,544,078	21,642,649	22,507,725	21,795,431			
決算・決算見込	21,043,379	20,903,179	21,045,883	-	-	-	-	-

【事業の目的・必要性】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【令和6年度実施内容の概要】

- 浄水処理や水質検査に係る取組等  
浄水処理や水質検査、水質向上の取組等及びこれらに係る薬品、設備機器の修繕・保守や事務所の経常業務等。  
(浄水場における水処理や水質検査等の経費のうち、収益的支出(浄水費)で行う取組に該当するもの)

【事業費の内訳】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	583,804	
手当	441,045	
法定福利費	210,108	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	3,735	
被服費	1,125	
備消耗品費	20,625	
燃料費	4,124	
光熱水費	16,889	
印刷製本費	1,750	
通信費	98,510	
委託料	1,229,658	川井浄水場運転管理、排水処理施設運転管理、各種装置保守・点検ほか
手数料	892	
賃借料	5,476	
修繕費	692,021	川井浄水場運転維持、小雀浄水場ろ過池更生工事、各種定期修繕ほか
材料費	52,615	
動力費	446,912	浄水処理・排水処理に係る電気代ほか
薬品費	634,390	浄水処理に係る活性炭・凝集剤・消毒用塩素ほか
補償費	350	
交付金	1,720	
自動車保険料	340	
負担金	472,899	排水処理に係る負担金ほか
自動車重量税	236	
寒川事業企業団受水費	3,413,269	相模川水系寒川事業における受水費
企業団受水費	13,462,938	企業団創設事業及び相模川水系建設事業における受水費

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

<参考>川井浄水場PFI事業に係る令和6年度予算額

内訳	予算額
施設整備費	645,386
施設整備費に係る支払利息	152,351
運転管理費	434,000
運転維持費(長期修繕費)	353,000
計	1,584,737

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 配水費				
予算科目	水道事業会計	目	配水費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	17,248,365				17,248,365
令和5年度	17,369,896				17,369,896
増△減	△121,531	0	0	0	△121,531

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	15,045,454	15,351,958	16,310,742	17,369,896	17,248,365			
決算・決算見込	14,856,751	13,998,824	15,389,433	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

- 浄水場からお客さまへ水道水を届ける取組等  
 浄水場で処理された水道水を浄水場から配水池、また配水池からお客さまの家（道路部分）まで配水する取組。その他、安定して配水するための小口径管の更新や道路漏水修理や関係する給水維持課等における経常業務など。（浄水場から各ご家庭まで水を運ぶ経費のうち、収益的支出（配水費）で行う取組に該当するもの）

【 事業費の内訳 】 (単位：千円)

節	予算額	備考
給料	1,942,204	
手当	1,625,910	
法定福利費	720,666	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	5,359	
被服費	3,863	
備消耗品費	31,779	
燃料費	16,185	
光熱水費	57,379	
印刷製本費	14,405	
通信費	17,316	
委託料	1,523,964	水道管マッピングシステム等データ補正・保守点検、各種バルブ保守点検ほか
手数料	34,830	
賃借料	41,486	
修繕費	9,159,839	小口径老朽管の更新、漏水修理、消火栓事故対策ほか
材料費	185,272	小口径老朽管の更新、漏水修理等に係る材料ほか
路面復旧費	435,099	小口径老朽管の更新、漏水修理工事等に伴う道路掘削跡の復旧費
動力費	1,302,138	送水・配水ポンプにかかる電気代ほか
薬品費	30,991	
補償費	509	
自動車保険料	2,823	
負担金	90,706	
自動車重量税	2,105	
調査研究費	3,500	
雑費	37	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子



## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 給水費				
予算科目	水道事業会計	目	給水費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	3,030,658				3,030,658
令和5年度	2,618,514				2,618,514
増△減	412,144	0	0	0	412,144

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	2,566,894	2,461,500	2,436,496	2,618,514	3,030,658			
決算・決算見込	2,405,371	2,256,621	2,431,924	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

- 水道水を届ける取組の内、お客さまの給水装置において行う取組  
お客さまの敷地内における水道メーター上流での漏水修理や水道メーターの交換等、お客さまが所有する給水装置において行う取組や給水維持課の経常業務等。  
(水道水を届ける取組でお客さまの給水装置において行うものうち、収益的支出(給水費)で行う取組に該当するもの)

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	205,722	
手当	154,700	
法定福利費	74,141	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	544	
報償費	1	
被服費	380	
備消耗品費	5,469	
燃料費	608	
光熱水費	5,340	
印刷製本費	1,366	
通信費	14,351	
委託料	384,469	給水装置工事給水審査・完了検査業務委託、水道メーター分解作業委託ほか
手数料	99	
賃借料	726	
修繕費	1,489,401	満期メーター取替工事、集中検針盤撤去ほか
材料費	663,101	取替時の水道メーター、漏水修理にかかる材料ほか
補償費	1	
自動車保険料	76	
負担金	135	
自動車重量税	28	
助成金	30,000	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 受託工事費				
予算科目	水道事業会計	目	受託工事費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	224,018				224,018
令和5年度	273,723				273,723
増△減	△49,705	0	0	0	△49,705

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	318,606	273,470	315,787	273,723	224,018			
決算・決算見込	302,519	299,341	234,379	—	—	—	—	—

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

- お客さまなどからの申し込みにより行う給水装置の新設や改造等。  
(申し込み者から費用を徴収：収益に計上)

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	70,115	
手当	63,548	
法定福利費	27,943	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	175	
被服費	139	
備消耗品費	403	
燃料費	621	
光熱水費	1,058	
印刷製本費	402	
通信費	424	
委託料	43,280	給水装置工事給水審査・完了検査業務委託ほか
手数料	14,897	
賃借料	144	
修繕費	772	
自動車保険料	68	
負担金	5	
自動車重量税	24	

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長

大矢 雅幸

係長

瀧上 明子

経理係

鈴木 祐子

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 業務費				
予算科目	水道事業会計	目	業務費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	6,429,196				6,429,196
令和5年度	6,335,493				6,335,493
増△減	93,703	0	0	0	93,703

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	5,887,348	5,871,509	6,128,622	6,335,493	6,429,196			
決算・決算見込	5,812,050	5,873,000	5,990,464	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

- お客さまサービスや水道料金の算定・徴収等に係る取組  
各地域サービスセンターで行うお客さまサービスの取組や、水道メーター検針や料金整理などに係る業務と各所管事業所の経常業務など。

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	739,135	
手当	593,197	
法定福利費	272,758	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	2,032	
被服費	1,494	
備消耗品費	11,987	
燃料費	2,160	
光熱水費	25,202	
印刷製本費	50,447	
通信費	338,470	水道料金納入通知書送付に係る郵便料ほか
委託料	3,810,774	検針業務・料金整理業務及びお客さまサービスセンターに係る委託ほか
手数料	560,861	水道料金口座振替、コンビニ・クレジットカード払等に係る経費ほか
賃借料	4,257	
修繕費	14,436	
自動車保険料	560	
負担金	1,078	
自動車重量税	348	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	水道事業費用 営業費用 総係費				
予算科目	水道事業会計	目	総係費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	4,943,612				4,943,612
令和5年度	4,541,247				4,541,247
増△減	402,365	0	0	0	402,365

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	5,936,303	5,403,196	4,773,219	4,541,247	4,943,612			
決算・決算見込	5,175,642	4,597,802	4,479,004	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】  
●水道事業全般に係る取組  
水源、浄水・配水に特化したものではなく、広く水道事業全般に係る取組。  
総務課や経理課などの経常業務など。

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	1,259,484	
手当	1,022,392	
報酬	5,534	
法定福利費	490,509	共済・健保事業主負担分ほか
旅費	26,484	
退職給与金	18,833	
報償費	2,201	
被服費	13,481	
備消耗品費	39,335	
燃料費	1,858	
光熱水費	18,464	
印刷製本費	12,154	
通信費	57,987	局内系ネットワーク回線使用料ほか
委託料	659,328	局内系ネットワークの運用・保守ほか
手数料	60,113	
賃借料	17,598	
修繕費	160,156	旧旭要員宿舎解体、水道技術資料館新羽分室解体ほか
材料費	2,003	
広告料	1,050	
補償費	538	
研修費	9,697	
交際費	100	
食糧費	700	
厚生費	29,979	
火災損害保険料	9,429	
自動車保険料	3,880	
負担金	254,783	共通システム等に係る市長部局への負担金ほか
自動車重量税	155	
児童手当	68,860	
調査研究費	3,800	
貸倒引当金繰入額	53,907	
退職給付費	626,630	
助成金	1,000	
雑費	11,190	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業費用 減価償却費・資産減耗費				
予算科目	水道事業会計	目	減価償却費・資産減耗費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	24,047,225				24,047,225
令和5年度	23,868,280				23,868,280
増△減	178,945	0	0	0	178,945

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	22,778,268	23,838,861	24,116,067	23,868,280	24,047,225			
決算・決算見込	23,064,853	23,420,282	23,822,244	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】  
水道事業会計の固定資産に係る減価償却費及び資産減耗費。

【 事業費の内訳 】  
(単位：千円)

目 / 節	予算額
減価償却費	21,308,672
有形固定資産減価償却費	20,211,821
無形固定資産減価償却費	1,096,851
資産減耗費	2,738,553
固定資産除却費	2,531,056
たな卸資産減耗費	207,497
合計	24,047,225

【 実績の推移・今後見込み 】  
<参考>有形固定資産帳簿価額(決算時)推移

(単位：千円)

	2年度	3年度	4年度
土地	19,688,402	19,671,038	19,672,357
立木	225,466	225,466	225,466
建物	15,284,101	15,092,750	15,027,257
構築物	438,637,324	441,786,791	446,313,979
機械及び装置	25,303,910	23,789,581	23,279,754
車両運搬具	124,886	98,732	87,251
船舶	220	139	87
工具・器具及び備品	354,785	325,262	296,013
リース資産	416,946	259,051	390,362
合計	500,036,040	501,248,810	505,292,526

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業費用 営業外費用、特別損失、予備費				
予算科目	水道事業会計	目		節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,810,156				2,810,156
令和5年度	2,946,744				2,946,744
増△減	△136,588	0	0	0	△136,588

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	3,681,492	3,579,398	3,060,351	2,946,744	2,810,156			
決算・決算見込	3,481,913	3,977,462	3,280,392	—	—	—	—	—

## 【事業の目的・必要性】

安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

## 【令和6年度実施内容の概要】

消費税、支払利息など通常の営業活動に該当しない経費。

## 【事業費の内訳】

(単位：千円)

項	目	節	予算額	備考
営業外費用	支払利息及び 企業債取扱諸費	企業債利息	2,279,010	
		PFI債務支払利息	152,351	川井浄水場PFI事業施設整備費に係る支払利息
		企業債手数料及び取扱費	104,445	企業債の元利支払手数料その他取扱諸費
	消費税及び地方消費税	消費税及び地方消費税	22,901	消費税納付額
	減価償却費	投資その他の資産	16,770	償却資産に対する減価償却費
	雑支出	その他雑支出	149,679	雑損失を見込み計上
小計			2,725,156	
特別損失	過年度損益修正損	過年度損益修正損	35,000	過年度損益修正を見込み計上
	小計		35,000	
予備費	予備費	予備費	50,000	
	小計		50,000	
合計			2,810,156	

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長

大矢 雅幸

係長

瀧上 明子

経理係

鈴木 祐子

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-----	--------	---	---------

事業名称	水道事業資本的支出 建設改良費				
予算科目	水道事業会計	目		節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	50,745,090				50,745,090
令和5年度	40,078,596				40,078,596
増△減	10,666,494	0	0	0	10,666,494

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	32,848,192	34,577,138	39,762,174	40,078,596	50,745,090			
決算・決算見込	32,609,140	29,175,729	35,340,502	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】  
支出の効果が長期間にわたる水道管の新設、建物の新設・改良、固定資産の購入等。

【 事業費の内訳 】  
建設改良費内訳

(単位：千円)

目/節	予算額	備考
基幹施設整備事業	19,708,000	
導水工事費	2,829,610	相模湖系導水路改良事業（川井接合井から西谷浄水場）DBほか
浄水工事費	13,142,066	西谷浄水場再整備事業（浄水処理施設）に伴う整備工事ほか
配水工事費	2,500,250	高塚配水池計装設備改良工事ほか
事務費	590,688	
PFI施設整備費	645,386	川井浄水場PFI事業施設整備費
配水管整備事業費	28,993,000	管網整備、老朽管更新、震災時重要拠点施設等への管路の耐震化ほか
建物改良費	548,250	庁舎改修工事ほか
諸設備改良費	599,150	庁舎照明LED工事ほか
量水器新設費	269,448	新築家屋等に設置する水道メーターに係る費用
諸設備新設費	134,311	次期財務会計システム開発業務委託ほか
城山ダム等共同施設分担金	119,628	城山ダム共同施設改良分担金ほか
固定資産購入費	227,800	車両及び機械器具備品等の購入費
リース債務支払額	145,503	パソコン賃借ほか
合計	50,745,090	

※主要事業掲載事業がある場合、当該事業費を含む。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業資本的支出 企業債償還金				
予算科目	水道事業会計	目	企業債償還金	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	11,943,184				11,943,184
令和5年度	11,096,151				11,096,151
増△減	847,033	0	0	0	847,033

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	12,568,736	13,665,852	8,547,526	11,096,151	11,943,184			
決算・決算見込	12,568,736	13,665,852	8,547,526	—	—	—	—	—

## 【事業の目的・必要性】

安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

## 【令和6年度実施内容の概要】

既定債に対する本年度元金償還金。

## 【事業費の内訳】

(単位：千円)

区分	令和4年度末 現在高	令和5年度末 現在高見込額	令和6年度中増減見込額		令和6年度末 現在高見込額
			令和6年度中 起債見込額	令和6年度中 元金償還見込額 (元年度予算額)	
配水管整備事業	88,573,387	102,615,677	19,037,000	4,404,020	117,248,657
配水管更生事業	280,862	213,428	0	58,912	154,516
基幹施設整備事業	69,452,986	65,529,026	5,322,000	7,471,641	63,379,384
相模貯水池大規模 建設改良事業費分担金	29,848	17,802	0	8,611	9,192
合計	158,337,083	※168,375,933	24,359,000	11,943,184	180,791,749

※ 5年度末現在高見込額は、4年度末現在高に5年度中起債見込額21,135,000,000円（4年度繰越5,543百万円を含む）を加え、5年度中元金償還見込額11,096,150,220円を減じた額。

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子



# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	経理課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-----	--------	---	---------	--

事業名称	水道事業資本的支出 投資、国庫補助金返還金、予備費				
予算科目	水道事業会計	目	出資金、国庫補助金返還金、予備費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	40,022				40,022
令和5年度	70,352				70,352
増△減	△ 30,330	0	0	0	△ 30,330

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	38,762	42,987	41,384	70,352	40,022			
決算・決算見込	10,685	13,076	11,565	-	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】  
安全で良質な水を安定して供給するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】  
「水のふるさと道志の森基金」への出資金等。

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

項/目	適用	予算額
投資/出資金	「水のふるさと道志の森基金」への出資金	9,022
	小 計	9,022
国庫補助金返還金 /国庫補助金返還金	国庫補助金返還金	1,000
	小 計	1,000
予備費 /予備費	予備費	30,000
	小 計	30,000
合 計		40,022

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	経理係
	大矢 雅幸	瀧上 明子	鈴木 祐子

# 工業用水道事業会計

## 令和6年度 事業計画書

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業費用 営業費用 原水費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	原水費	節	-

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	861,074					861,074
令和5年度	900,818					900,818
増△減	△ 39,744	0	0	0	0	△ 39,744

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	746,875	753,963	728,151	900,818	861,074	未定	未定	未定
決算・決算見込	623,540	643,990	705,075	900,818	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

水源から浄水場まで水を運ぶ取組  
 取水施設や導水施設の維持管理等に伴う県及び水道事業会計への負担金等。  
 (水源から浄水場まで水を運ぶ経費のうち、収益的支出(原水費)で行う取組に該当するもの)

**【 事業費の内訳 】**

(単位：千円)

節	予算額	備考
交付金	14,230	国有資産等所在市町村交付金法に基づく市町村交付金
負担金	846,844	相模湖・津久井湖の環境保全対策、上水道施設使用に伴う負担金ほか

**【 実績の推移・今後見込み 】**

**【 事業スケジュール 】**

**【 費用対効果分析 】**

**【 事業開始年度 】**

**【 根拠法令・データ等 】**

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業費用 営業費用 浄水費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	浄水費	節	-

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	253,042					253,042
令和5年度	269,215					269,215
増△減	△ 16,173	0	0	0	0	△ 16,173

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	279,481	256,331	259,484	269,215	253,042	未定	未定	未定
決算・決算見込	239,931	206,674	199,262	269,215	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

浄水処理に係る取組等

浄水施設の維持管理等に伴う水道事業会計への負担金等。

(浄水場における水を処理する経費のうち、収益的支出(浄水費)で行う取組に該当するもの)

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	9,615	
手当	7,046	
法定福利費	3,391	共済・健保事業主負担分等
旅費	14	
被服費	0	
備消耗品費	370	
光熱水費	950	
通信費	225	
委託料	4,840	
賃借料	13	
修繕費	5,000	
材料費	30	
交付金	1,517	
負担金	220,031	上水道との共用施設に対する負担等

【 実績の推移・今後見込み 】

【 事業スケジュール 】

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

【 根拠法令・データ等 】

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号
-----	-----	-------	--------	---	---------

事業名称	工業用水道事業費用 営業費用 送配水費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	送配水費	節	-

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	282,464					282,464
令和5年度	264,974					264,974
増△減	17,490	0	0	0	0	17,490

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	310,664	265,663	298,399	264,974	282,464	未定	未定	未定
決算・決算見込	188,286	175,168	158,657	264,974	-	-	-	-

**【 事業の目的・必要性 】**

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

**【 令和6年度実施内容の概要 】**

浄水場からユーザーへ工業用水を届ける取組等  
 送・配水管をはじめとする送配水施設の維持管理等に伴う水道事業会計への負担金等。  
 (浄水場からユーザーまで水を運ぶ経費のうち、収益的支出(送配水費)で行う取組に該当するもの)

**【 事業費の内訳 】**

(単位：千円)

節	予算額	備考
給料	46,611	
手当	33,203	
法定福利費	15,503	共済・健保事業主負担分等
旅費	24	
被服費	46	
備消耗品費	538	
燃料費	927	
光熱水費	1,970	
印刷製本費	700	
通信費	7,845	
委託料	22,060	
手数料	105	
賃借料	5,324	
修繕費	53,277	配水管漏水破裂修繕ほか
材料費	2,000	
補償費	30	
自動車保険料	165	
負担金	92,070	送配水管の維持管理業務等の上水道への委託に伴う負担等
自動車重量税	66	

**【 実績の推移・今後見込み 】**

**【 事業スケジュール 】**

**【 費用対効果分析 】**

**【 事業開始年度 】**

**【 根拠法令・データ等 】**

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信

# 令和 6 年 度 事 業 計 画 書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業費用 営業費用 総係費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	総係費	節	-

(単位：千円)

区 分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	198,033					198,033
令和5年度	189,918					189,918
増△減	8,115	0	0	0	0	8,115

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	228,921	226,746	196,637	189,918	198,033	未定	未定	未定
決算・決算見込	190,219	167,739	172,569	189,918	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

工業用水道事業全般に係る取組

水源、浄水・配水に特化したものではなく、広く工業用水道事業全般に係る取組。  
(事業運営に必要な総括的経費)

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

節	予算額	備 考
給料	62,786	
手当	47,569	
賃金	0	
法定福利費	23,252	共済・健保事業主負担分等
旅費	662	
報償費	30	
被服費	136	
備消耗品費	1,450	
燃料費	173	
印刷製本費	1,200	
通信費	241	
委託料	200	
手数料	895	
賃借料	411	
修繕費	263	
材料費	30	
研修費	0	
交際費	50	
食糧費	110	
厚生費	643	
火災損害保険料	97	
自動車保険料	32	
負担金	36,291	一般管理業務の上水道への委託に伴う負担等
自動車重量税	51	
児童手当	2,600	
退職給付費	18,836	
雑費	25	

【 実績の推移・今後見込み 】

【 事業スケジュール 】

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

【 根拠法令・データ等 】

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業費用 営業費用 減価償却費 工業用水道事業費用 営業費用 資産減耗費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	減価償却費・資産減耗費	節	-

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	975,948					975,948
令和5年度	912,724					912,724
増△減	63,224	0	0	0	0	63,224

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	842,250	870,933	890,981	912,724	975,948	未定	未定	未定
決算・決算見込	830,165	829,257	891,558	912,724	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

工業用水道事業会計の固定資産に係る減価償却費及び資産減耗費

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

目 / 節	予算額
減価償却費	910,784
有形固定資産減価償却費	909,146
無形固定資産減価償却費	1,638
資産減耗費	65,164
固定資産除却費	65,164
合計	975,948

【 実績の推移・今後見込み 】

<参考>有形固定資産帳簿価額(決算時)推移

(単位：千円)

	2年度	3年度	4年度
土地	932,313	934,665	935,129
建物	322,167	290,747	259,843
構築物	16,273,435	16,212,258	17,286,382
機械及び装置	1,080,266	970,767	838,000
車両運搬具	5,982	4,266	2,794
船舶	0	141	89
工具・器具及び備品	2,833	2,894	2,268
合計	18,616,996	18,415,738	19,324,505

【 事業スケジュール 】

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

【 根拠法令・データ等 】

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業費用	工業用水道事業費用	工業用水道事業費用	営業外費用 特別損失 予備費
予算科目	工業用水道事業会計	目	支払利息及び企業債取扱諸費・雑支出・過年度損益修正損・予備費	節

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	97,500					97,500
令和5年度	97,730					97,730
増△減	△ 230	0	0	0	0	△ 230

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	122,073	81,147	80,132	97,730	97,500	未定	未定	未定
決算・決算見込	55,168	40,910	49,788	97,730	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

企業債の支払利息など通常の営業活動に該当しない経費

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

項	目	節	予算額	備考
営業外費用	支払利息及び 企業債取扱諸費	企業債利息	63,175	
		企業債手数料及び取扱費	6,325	企業債の元利支払手数料その他取扱諸費
	雑支出	その他雑支出	11,000	消費税納税予備費等
	小計		80,500	
特別損失	過年度損益修正損	過年度損益修正損	10,000	過年度損益修正損を見込み計上
	小計		10,000	
予備費	予備費	予備費	7,000	
	小計		7,000	
合計			97,500	

【 実績の推移・今後見込み 】

【 事業スケジュール 】

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

【 根拠法令・データ等 】

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	宮崎 利信



# 令和 6 年 度 事 業 計 画 書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道施設の建設改良（施設の更新・耐震化）					
予算科目	工業用水道事業会計	目	施設整備事業費ほか	節	工事請負費ほか	

（単位：千円）

区 分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	3,288,614		240,700	1,484,000	0	1,563,914
令和5年度	3,454,378		313,900	1,005,000	0	2,135,478
増△減	△ 165,764	0	△ 73,200	479,000	0	△ 571,564

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	2,256,940	2,539,401	3,454,378	3,454,378	3,288,614	未定	未定	未定
決算・決算見込	2,013,313	2,337,729	2,360,678	3,454,378	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

昭和30年代から昭和40年前後に布設した配水管が更新時期を迎えていることから、漏水・破裂等が発生する恐れのある老朽管を対象に、管路の老朽度や埋設状況などを考慮して優先順位を定め、計画的に更新・耐震化を進めるとともに、電機・計装設備などについても更新することで安定給水を確保します。

【 令和6年度実施内容の概要 】

【 事業費の内訳 】

建設改良費内訳

（単位：千円）

目／節	予算額	備 考
工業用水道事業施設整備事業費	3,150,703	
相模湖系統施設改良費	2,498,666	東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事（その1）ほか
馬入川系統施設改良費	652,037	根岸線口径700mm配水管布設替工事（その8）ほか
諸設備改良費	55,000	
諸設備新設費	5,000	
固定資産購入費	13,504	
城山ダム等共同施設分担金	42,247	城山ダム等共同施設改良工事に伴う分担金
相模貯水池堆砂対策事業分担金	22,160	相模貯水池堆砂対策事業に伴う分担金
合 計	3,288,614	

【 実績の推移・今後見込み 】

年度	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末水準（予定）	令和6年度末水準（予定）
送配水管の耐震管率	(0.14km布設替) 48%	(0.68km布設替) 49%	(0.29km布設替) 49%	(1.51km布設替) 51%	(2.17km布設替) 53%

【 事業スケジュール 】

令和6年度は、令和6年度から令和9年度までの策定中の「横浜水道中期経営計画」に基づき施行します。  
また、財源確保のため、経済産業省のアセットマネジメント指針に基づいた施設整備計画により、国庫補助金（横浜市工業用水道強靱化事業）の確保に努めます。

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

横浜市工業用水道事業 昭和35年度 給水開始

【 根拠法令・データ等 】

工業用水道事業法  
横浜市工業用水道条例

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	萩原 啓介

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	—	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	工業用水道事業資本的支出 企業債償還金				
予算科目	工業用水道事業会計	目	企業債償還金	節	企業債償還金

(単位：千円)

区分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	241,481					241,481
令和5年度	246,499					246,499
増△減	△ 5,018	0	0	0	0	△ 5,018

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	261,861	245,075	247,379	246,499	241,481	未定	未定	未定
決算・決算見込	261,127	245,074	247,379	246,499	—	—	—	—

【 事業の目的・必要性 】					
工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用					
【 令和6年度実施内容の概要 】					
発行済の企業債（市債）に対する本年度元金償還金					
【 事業費の内訳 】					
(単位：千円)					
区分	令和4年度末 現在高	令和5年度末 現在高見込額	令和6年度中増減見込額		令和6年度末 現在高見込額
			令和6年度中 起債見込額	令和6年度中 元金償還見込額	
建物新築	15,568	13,088	0	2,524	10,564
建物改良	13,430	11,330	0	2,139	9,191
工業用水道施設整備事業	3,552,165	4,468,763	1,484,000	236,290	5,716,473
相模貯水池大規模 建設改良事業費分担金	1,799	1,282	0	528	754
合 計	3,582,962	※ 4,494,463	1,484,000	241,481	5,736,982
※5年度末現在高見込額は、4年度末現在高に5年度中起債見込額1,158,000,000円（4年度繰越153百万円を含む）を加え、5年度中元金償還見込額246,498,121円を減じた額。					
【 実績の推移・今後見込み 】					
【 事業スケジュール 】					
【 費用対効果分析 】					
【 事業開始年度 】					
【 根拠法令・データ等 】					
地方公営企業法、工業用水道事業法ほか					

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	萩原 啓介

# 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	国庫補助金返還金 予備費				
予算科目	工業用水道事業会計	目	国庫補助金返還金・予備費	節	

(単位：千円)

区 分	予算(A)	うち枠予算(B)	(A)の財源内訳			
			国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	5,000					5,000
令和5年度	5,000					5,000
増△減	0	0	0	0	0	0

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	未定	未定	未定
決算・決算見込	18	0	0	5,000	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水の豊富低廉な供給を図り、工業の健全な発達に寄与するための諸費用

【 令和6年度実施内容の概要 】

国庫補助金に係る消費税及び地方消費税相当額等返還金及び用地処分に伴う国庫補助金返還金

【 事業費の内訳 】

(単位：千円)

項/目	適 用	予算額
国庫補助金返還金 /国庫補助金返還金	用地処分に伴う国庫補助金返還金	1,000
	小 計	1,000
予備費 /予備費	予備費	4,000
	小 計	4,000
合 計		5,000

【 実績の推移・今後見込み 】

【 事業スケジュール 】

【 費用対効果分析 】

【 事業開始年度 】

【 根拠法令・データ等 】

地方公営企業法、工業用水道事業法ほか

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	大武 康彦	萩原 啓介

【様式6】

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	東寺尾送水幹線の更新・耐震化<再掲>				
予算科目	工業用水道事業会計	目	工業用水道施設整備事業費	節	

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	2,300,500	240,700	1,425,000		634,800
令和5年度	1,207,000	213,700	395,000		598,300
増△減	1,093,500	27,000	1,030,000	0	36,500

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算	594,500	755,500	1,025,500	1,207,000	2,300,500	787,322	1,374,754	1,531,654
決算・決算見込	331,996	751,825	229,490	1,816,057	-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

東寺尾送水幹線は鶴ヶ峰沈でん池から鶴見区・神奈川区に位置する京浜工業地帯へ給水するための重要幹線です。当該幹線は、昭和32年から昭和44年頃にかけて整備した口径1100mmの工業用水道管で布設後60年以上経過していることから老朽化が進んでおり、安定給水を確保するため更新工事を進めています。

【 令和6年度実施内容の概要 】

令和元年度から5年度までに築造した神奈川区の羽沢町から三枚町までの1工区2.2kmのトンネル内に水道管の布設を完了させ、引き続き羽沢町から旭区白根までの2工区2.7km区間を着手します。

【 事業費の内訳 】

東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事(その1)(羽沢→三枚町) 2,300,500千円  
 東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事(その2)(羽沢→白根) 0千円(初年度出来高予定額)

【 実績の推移・今後見込み 】

令和元年度～令和5年度に羽沢～三枚町間トンネル築造を行っており、令和6年度にトンネル内に水道管を布設します。引き続き、羽沢町～白根間、白根～工水鶴ヶ峰沈でん池間を施工し、上流区間の更新工事を完了させます。  
 その後、下流側の更新済区間を除く片倉町から東寺尾配水池間の更新に取り組みます。

【 事業スケジュール 】

令和元年度～令和6年度 東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事(その1)  
 令和6年度～令和9年度 東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事(その2)  
 令和9年度～令和12年度 東寺尾送水幹線口径1100mm更新工事(その3)  
 以降、神奈川区片倉町から東寺尾配水池間の更新工事を計画・施工予定

【 費用対効果分析 】

平成26年度に実施した、経済産業省アセットマネジメント指針に基づく管路の評価により東寺尾送水幹線は早急に更新の必要がある施設と位置付けられており、更新することにより安定給水の確保が図られます。また、工業用水管路は単送管路のため、既設管路を工事する場合は断水が発生してしまいますが、東寺尾送水幹線は鶴見神奈川臨海地区の42ユーザーに供給する重要な送水幹線であり、断水せずに更新するため、別ルートで管路を新設する施工を行っています。

【 事業開始年度 】

令和元年度

【 根拠法令・データ等 】

経済産業省：「工業用水道施設 更新・耐震・アセットマネジメント指針(平成25年3月)」

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	中西 泉	加藤 博泰

## 令和6年度事業計画書

局課名	水道局	工業用水課	新規拡充事業	一	事業評価書番号	
-----	-----	-------	--------	---	---------	--

事業名称	相模湖系統への統合に向けた施設整備<再掲>				
予算科目	工業用水道事業会計	目	相模湖系統施設整備費	節	-

(単位：千円)

区分	予算(A)	(A)の財源内訳			
		国等	市(繰入金等)	負担金等	自己資金
令和6年度	0				0
令和5年度	0				0
増△減	0	0	0	0	0

事業費	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
予算				0	0	30,000	30,000	831,832
決算・決算見込					-	-	-	-

【 事業の目的・必要性 】

工業用水道の基幹施設である馬入川系統の施設更新時期を迎えるにあたり、将来の水需要の減少に見合ったダウンサイジングを図るとともに、大規模地震等に備えた施設の耐震化や環境負荷の低減等を考慮した取水からユーザー企業まで自然流下方式で給水を可能とするための送水管路整備を行う。

【 令和6年度実施内容の概要 】

上水道管路の転用等を含めた、馬入川系統への最適な送水管路及び工法の検討を含めた送水管路整備基本計画の策定を行う。(R6～R7債務負担)

【 事業費の内訳 】

基本計画策定業務 R6年度 0千円  
R7年度 30,000千円

【 実績の推移・今後見込み 】

基本計画に基づき送水管路更新工事を着手し、小雀浄水場廃止予定の令和22年度までに現在、馬入川系統の施設によって給水している中区、磯子区、戸塚区、栄区のエリアに自然流下系である相模湖系統から給水可能とする。

【 事業スケジュール 】

令和6～7年度 基本計画策定  
令和8年度 管路更新工事詳細設計  
令和9年度～ 順次新設・更新工事着工  
令和22年度 相模湖系統に統合

【 費用対効果分析 】

馬入川系統施設を更新する案(①)と、廃止し相模湖系統に統合した案(②)場合を比較検討したところ、廃止案(②)が有利と判断しました。

	給水の安定性	コスト		環境負荷 (温室効果ガス排出量)
		施設整備費	維持管理費	
更新案(①)	確保	約762億円	約4.0億円/年	約2,400t-CO2/年
廃止案(②)	確保	約470億円	約2.0億円/年	約200t-CO2/年
差(②-①)	—	▲約292億円	▲約2.0億円/年	▲約2,200t-CO2/年

【 事業開始年度 】

令和6年度

【 根拠法令・データ等 】

本資料は、公正・適正に作成しました。	課長	係長	事業管理係
	尾和 弘朗	中西 泉	加藤 博泰